

# 人文学部教育職員研究業績一覧(2015～2019年度)

## 記載内容の凡例

### I. 書籍等出版物

番号・著者・編者等，タイトル，出版社，出版年月，総ページ数，役割（単著・共著・分担執筆・編者・共編・編著・共編著・監修・単訳・共訳・その他の別），担当範囲，担当ページ範囲

※ISBNが付された媒体に発表された業績は，原則として「書籍等出版物」に分類する。

※共著・分担執筆等で著者・編者等が多数に及ぶ場合，原則として，各役割について本人を含め奥付・目次等の記載順に5人までを列記し，6人目からは「ほか〇名」と記載する。以下同じ。

※同一書籍中に「担当範囲」が複数ある場合は，原則として，全角スラッシュ（／）で区切り，担当ページ範囲は「担当範囲」の記載順に列記する。

### II. 論文

番号・著者，タイトル，誌名，巻号，出版年月，ページ範囲，査読の有無，招待の有無

※招待の有無は，無しの場合記載しない。以下同じ。

### III. 研究ノート・書評等

番号・著者，ジャンル名，タイトル，誌名，巻号，出版年月，ページ範囲，査読の有無，招待の有無

### IV. 講演・口頭発表等

番号・報告者，タイトル，会議名，開催地，開催年月日，報告種別，招待の有無

### V. 受賞

番号・受賞者（グループ）名，受賞名，授与団体名，受賞年月

### VI. 競争的資金等の研究課題（代表者・分担者。単年度ごとに記載）

番号・研究代表者名（分担者の場合は，分担者名），研究課題名，研究課題番号，研究種目，代表者・分担者の別，研究期間

### VII. その他（特記すべき作品，活動等）

番号・発表者，内容，分類，発表場所，発表年月等

## 哲学講座

高木 智見 (たかぎ さとみ) 博士 (歴史学)

### I. 書籍等出版物

1. 廖 欽彬・高木 智見編, 林 少陽・黄 東蘭・呉 偉明・胡 珍子・林 超純ほか3名, 『近代日本の中国学』, 臺大出版中心, 2018年9月, 全263ページ, 共編著, 「序章」 / 「孟子の思想と早期湖南」, 1-6 / 89-113ページ
2. 鶴間 和幸編, 工藤 元男・竹内 康浩・高木 智見・藤田 勝久・林 俊夫ほか7名, 『悪の歴史 東アジア編 上』, 清水書院, 2017年9月, 全331ページ, 分担執筆, 「孔子: その行き過ぎた理想主義は欠点か」, 58-83ページ
3. 高木 智見, 『内藤湖南: 近代人文学の原点』, 筑摩書房, 2016年11月, 全397ページ, 単著

### II. 論文

1. 高木 智見, 「早期湖南と孟子の思想 (下)」, 『湖南』, 37号, 2017年5月, 22-41ページ, 査読無し
2. 高木 智見, 「早期湖南と孟子の思想 (上)」, 『湖南』, 36号, 2016年5月, 1-30ページ, 査読無し
3. 高木 智見, 「早期湖南の学問と思想: 『内藤湖南全集』未収録文を中心として」, 『山口大学文学会志』, 66巻, 2016年3月, 1-17ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 高木 智見, 「早期湖南と孟子の思想」, シンポジウム「近代日本における中国学: 漢学から支那学への変容」, 香港中文大学・香港 (中国), 2015年10月24日, 口頭, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

なし

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 高木 智見, 「少年湖南と孟子の思想」, 鹿角市先人顕彰館シンポジウム「現代に生きる湖南」, 鹿角市先人顕彰館・鹿角市, 2015年9月13日, 口頭, 招待有り

脇條 靖弘 (わきじょう やすひろ) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. プラトン, 脇條 靖弘訳, 『パイドロス』 (西洋古典叢書), 京都大学学術出版会, 2018年7月, 全282ページ, 単訳

### II. 論文

1. 脇條 靖弘, 「問答法と定義: プラトン『パイドロス』265c-266b」, 『山口大学哲学研究』, 25巻, 2018年3月, 49-60ページ, 査読無し

2. 脇條 靖弘, 「プラトン『パイドロス』における真の弁論術」, 『山口大学哲学研究』, 23巻, 2016年3月, 1-19ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

1. 脇條 靖弘, (研究ノート), 「Zaltaの基本的対象理論」, 『山口大学哲学研究』, 27号, 2020年3月, 47-75ページ, 査読無し

### IV. 講演・口頭発表等

1. 脇條 靖弘, 「早瀬論文への質問」, 古代哲学フォーラム（イリソス会）第46回例会, 京都大学・京都市, 2017年3月25日, 特定質問, 招待有り
2. 脇條 靖弘, 「プラトン『パイドロス』における真の弁論術」, 第12回西日本古代哲学会, 福岡大学セミナーハウス・福岡市, 2016年4月29日, 口頭
3. 脇條 靖弘, 「プラトン『パイドロス』における哲学者と幸福」, 西日本哲学会第66回大会シンポジウム, 西南学院大学・福岡市, 2015年12月5日, 口頭, 招待有り
4. 脇條 靖弘, 「テーマ「真理論」研究課題発表への質問」, 関西哲学会第68回大会, 京都大学・京都市, 2015年10月25日, 特定質問, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

なし

### VII. その他（特記すべき作品, 活動等）

なし

**ALAM Djumali** (あらむ じゅまり) 博士（学術）

### I. 書籍等出版物

なし

### II. 論文

1. アラム・ジュマリ, 「キャラクターの二次創作活動（キャラ活）の宗教学的考察：(1) 概要編」, 『山口大学哲学研究』, 27巻, 2020年3月, 17-46ページ, 査読無し
2. アラム・ジュマリ, 「「キャラ活（キャラクターを巡る諸活動）」における「擬人化」：「カリスマ」と「偶像」の狭間で」, 『異文化研究』, 13号, 2019年3月, 31-56ページ, 査読無し
3. アラム・ジュマリ, 「ペット供養：人と動物の絆の結び替えと存続」, 『Biostory（ビオストーリー）』, 23巻, 2015年6月, 61-65ページ, 査読無し, 招待有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. アラム・ジュマリ, 「カリスマから偶像へ：擬人化とシミュレーションの狭間で」, 山口大学哲学研究会, 山口大学・山口市, 2018年9月28日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

なし

## VII. その他（特記すべき作品，活動等）

1. アラム・ジュマリ，「キャラクターの二次創作活動」に見る宗教性／スピリチュアリティ，夢ナビ講義，マリンメッセ福岡・福岡市，2018年10月20日，講義

柏木 寧子（かしわぎ やすこ） 博士（文学）

## I. 書籍等出版物

なし

## II. 論文

なし

## III. 研究ノート・書評等

1. 柏木 寧子，（研究ノート），『今昔物語集』天竺部を仏伝として読むために，『山口大学哲学研究』，23巻，2016年3月，41-68ページ，査読無し

## IV. 講演・口頭発表等

なし

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 柏木 寧子，神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究：日本思想の基軸の解明，17K02189，基盤研究(C)，分担者，2019年
2. 柏木 寧子，神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究：日本思想の基軸の解明，17K02189，基盤研究(C)，分担者，2018年
3. 柏木 寧子，神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究：日本思想の基軸の解明，17K02189，基盤研究(C)，分担者，2017年
4. 柏木 寧子，神仏共存世界における人間の「現存」に関する倫理学的研究：「愚管抄」を中心に，26370035，基盤研究(C)，分担者，2016年
5. 柏木 寧子，神仏共存世界における人間の「現存」に関する倫理学的研究：「愚管抄」を中心に，26370035，基盤研究(C)，分担者，2015年

## VII. その他（特記すべき作品，活動等）

1. 上原 雅文・柏木 寧子・吉田 真樹・栗原 剛・佐藤 正英，「科研費研究成果報告書『愚管抄』：問題点と試訳（2）」，神奈川大学学術機関リポジトリ<<https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp>>，2018年6月，全21ページ，分担執筆，「No. 438-No. 464」，15-21ページ
2. 上原 雅文・柏木 寧子・吉田 真樹・栗原 剛・佐藤 正英，「科研費研究成果報告書『愚管抄』：問題点と試訳（1）」，神奈川大学学術機関リポジトリ<<https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp>>，2017年6月，

全53ページ，分担執筆，「No. 166-No. 249」，28-38ページ

藤川 哲（ふじかわ さとし） 修士（文学）

#### I. 書籍等出版物

1. 山口大学時間学研究所編，青山 拓央・山口 尚・平井 靖史・高橋 大助・藤川 哲ほか4名，『時間学の構築Ⅱ 物語と時間』，恒星社厚生閣，2017年6月，全231ページ，分担執筆，第3章「クレメント・グリーンバーグの美術批評における物語と時間：文学的効果に対する否定と無限の多様性をもった1つの響き」，59-90ページ

#### II. 論文

1. FUJIKAWA Satoshi, 'The Art Biennial of Venice 1999–2019 and Biennialization: Historical Analysis of Catalog Forewords', 『山口大学哲学研究』, 27巻, 2020年3月, 1-16ページ, 査読無し
2. 藤川 哲, 「近代とポスト近代の美術理論における「主題」: Ch. ハリソン& P. ウッド編『理論にみる美術1900-2000』による」, 『山口大学哲学研究』, 24巻, 2017年3月, 23-51ページ, 査読無し
3. 藤川 哲, 「『新潮 世界美術辞典』の項目見出しを基にした主題語の抽出と分析」, 『山口大学文学会志』, 66巻, 2016年3月, 101-120ページ, 査読無し

#### III. 研究ノート・書評等

1. 藤川 哲, (批評), 「日本型ドクメンタと歴史の鏡」, 『リア』, 44号, 2020年3月, 34-36ページ, 査読無し, 招待有り
2. 藤川 哲, (海外レポート), 「境界と分断: 光州ビエンナーレ2018・釜山ビエンナーレ2018報告」, 『国立国際美術館ニュース』, 230号, 2019年2月, 4-5ページ, 査読無し
3. 藤川 哲, (批評), 「美術史を重ね観る」, ウェブサイト「Operation Table」<<http://www.operation-table.com/kiyo.html>>, 2018年8月, 査読無し
4. 拝戸 雅彦・藤川 哲, (対談), 「ブランディングとしての国際展: あいちモデルの未来と観客」, 『リア』, 40号, 2017年10月, 106-124ページ, 査読無し, 招待有り
5. 藤川 哲, (批評), 「「集合的創造性」と「生活の質」の相乗的な向上」, 『コレクティブ: EAS\_Y Vol.2』, 2017年2月, 106-109ページ, 査読無し, 招待有り
6. 藤川 哲, (批評), 「ライブ化が進むビエンナーレ: ヴェネツィア・ビエンナーレ第56回国際美術展を中心に」, 『リア』, 35号, 2015年9月, 80-86ページ, 査読無し, 招待有り
7. 藤川 哲, (書評), 「アカデミズムの再構築——書評: 太田智己『社会とつながる美術史』」, 『図書新聞』, 3208号, 2015年5月, 5ページ, 査読無し, 招待有り

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 藤川 哲, 「山口市中心市街地における現代アートの展開とその背景」, UBEビエンナーレ・AIRネットワーク研究会, ときわ湖水ホール・宇部市, 2019年3月16日, 口頭, 招待有り

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 藤川 哲, 日本と韓国における国際美術展のグランド・ツアーインパクトをめぐる基礎的研究, 18K00188, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 藤川 哲, 日本と韓国における国際美術展のグランド・ツアーインパクトをめぐる基礎的研究, 18K00188, 基盤研究(C), 2018年, 代表者
3. 藤川 哲, 国際美術展の企画テーマと出品作品に基づく「現代美術主題分類システム」の構築,

- 15K12827, 挑戦的萌芽研究, 2018年(研究期間延長), 代表者
4. 藤川 哲, 国際美術展の企画テーマと出品作品に基づく「現代美術主題分類システム」の構築, 15K12827, 挑戦的萌芽研究, 2017年, 代表者
  5. 藤川 哲, 国際美術展の企画テーマと出品作品に基づく「現代美術主題分類システム」の構築, 15K12827, 挑戦的萌芽研究, 2016年, 代表者
  6. 藤川 哲, 国際美術展の企画テーマと出品作品に基づく「現代美術主題分類システム」の構築, 15K12827, 挑戦的萌芽研究, 2015年, 代表者

## VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

1. 藤川 哲, 「第3回 文化多元主義と芸術祭の時代」, やまぐち街なか大学 現代アート考2019, 山口情報芸術センター・山口市, 2019年9月13日, 講演
2. 藤川 哲, 「第2回 日本の現代アート・シーン」, やまぐち街なか大学 現代アート考2019, 山口情報芸術センター・山口市, 2019年7月19日, 講演
3. 藤川 哲, 「第1回 アートにおけるモダニズム」, やまぐち街なか大学 現代アート考2019, 山口情報芸術センター・山口市, 2019年6月14日, 講演
4. 藤川 哲, 「シドニー・ビエンナーレ2018報告会」, やまぐち街なか大学 山口盆地考2018, 山口情報芸術センター・山口市, 2018年6月15日, 講演
5. 藤川 哲, 「グランド・ツアー2017: ヴェネツィア、カッセル、ミュンスター〜現代アートの旅〜」, アートとまちの恋愛講座, ヒストリア宇部・宇部市, 2017年11月19日, 講演
6. 藤川 哲, 「UBEビエンナーレ鑑賞術: 彫刻のあるまちに暮らす」, ライブラリートーク2, UBEビエンナーレライブラリー・宇部市, 2017年10月28日, 講演
7. 藤川 哲, 「ジャポニスム: フランスにおける日本美術の「影響」」, 山口日仏協会創立10周年記念パリ祭, 山口大学大学会館・山口市, 2017年7月16日, 講演

栗原 剛 (くりはら ごう) 博士 (文学)

## I. 書籍等出版物

1. 菅野 覚明・栗原 剛・木澤 景・菅原 令子, 『新校訂 全訳注 葉隠 下』(講談社学術文庫), 講談社, 2018年11月, 全739ページ, 共著, 聞書八/聞書十/聞書十一/現代語訳, 12-208 / 283-499 / 500-694ページ
2. 菅野 覚明・栗原 剛・木澤 景・菅原 令子, 『新校訂 全訳注 葉隠 中』(講談社学術文庫), 講談社, 2018年5月, 全862ページ, 共著, 聞書四/聞書五/聞書七/現代語訳, 12-128 / 129-406 / 684-810ページ
3. 菅野 覚明・栗原 剛・木澤 景・菅原 令子, 『新校訂 全訳注 葉隠 上』(講談社学術文庫), 講談社, 2017年9月, 全644ページ, 共著, 聞書二/聞書三/現代語訳, 290-471 / 472-563ページ
4. 栗原 剛, 『佐藤一斎: 克己の思想』(講談社学術文庫), 講談社, 2016年12月, 全312ページ, 単著 (初出: 栗原 剛, 『佐藤一斎: 克己の思想』(再発見 日本の哲学), 講談社, 2007年7月, 全278ページ, 単著)
5. 藤田 尚志・宮野 真生子編, 近藤 智彦・小笠原 史樹・佐藤 啓介・福島 和己・栗原 剛ほか1名, 『愛: 結婚は愛のあかし? (愛・性・家族の哲学①)』, ナカニシヤ出版, 2016年4月, 全214ページ, 分担執筆, 「近世日本における恋愛と結婚: 『曾根崎心中』を手がかりに」, 164-170ページ

## II. 論文

1. 栗原 剛, 「『葉隠』「聞書第一」第二項における死: 「喧嘩打返」の理想形に即して」, 『山口大学哲学研究』, 27巻, 2020年3月, 1-16ページ, 査読無し
2. 栗原 剛, 「『心中天の網島』における罪業と救済」, 『山口大学哲学研究』, 24巻, 2017年3月, 1-19ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 栗原 剛, 「近松心中物における情死と救済」, 日本倫理学会 第69回大会 主題別討議「物語という方法」, 玉川大学・町田市, 2018年10月6日, 口頭, 招待有り (要旨: 栗原 剛, 「近松心中物における情死と救済」, 『倫理学年報』, 第68集, 2019年3月, 67-70ページ)
2. 栗原 剛, 「『言志四録』と『洗心洞割記』: 近世後期における武士の自意識をめぐる考察」, 日本倫理学会 (第66回大会) 主題別討議「武士道論の再考」, 熊本大学・熊本市, 2015年10月3日, 口頭, 招待有り (要旨: 栗原 剛, 「『言志四録』と『洗心洞割記』: 近世後期における武士の自意識をめぐる考察」, 『倫理学年報』, 第65集, 2016年3月, 83-86ページ)

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 栗原 剛, 『葉隠』の武士道をめぐる倫理思想史学的研究: 未刊写本の翻刻と訳注作成を通して, 17K02257, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 栗原 剛, 神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究: 日本思想の基軸の解明, 17K02189, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
3. 栗原 剛, 『葉隠』の武士道をめぐる倫理思想史学的研究: 未刊写本の翻刻と訳注作成を通して, 17K02257, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
4. 栗原 剛, 神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究: 日本思想の基軸の解明, 17K02189, 基盤研究(C), 分担者, 2018年
5. 栗原 剛, 『葉隠』の武士道をめぐる倫理思想史学的研究: 未刊写本の翻刻と訳注作成を通して, 17K02257, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
6. 栗原 剛, 神仏共存神話の原理に関する倫理学的研究: 日本思想の基軸の解明, 17K02189, 基盤研究(C), 分担者, 2017年
7. 栗原 剛, 神仏共存世界における人間の「現存」に関する倫理学的研究: 「愚管抄」を中心に, 26370035, 基盤研究(C), 分担者, 2016年
8. 栗原 剛, 神仏共存世界における人間の「現存」に関する倫理学的研究: 「愚管抄」を中心に, 26370035, 基盤研究(C), 分担者, 2015年

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 上原 雅文・柏木 寧子・吉田 真樹・栗原 剛・佐藤 正英, 「科研費研究成果報告書『愚管抄』: 問題点と試訳 (1)」, 神奈川大学学術機関リポジトリ<<https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp>>, 2017年6月, 全53ページ, 分担執筆, 「No. 124-No. 165」 / 「No. 250-No. 356」, 22-28ページ / 38-53ページ

村上 龍 (むらかみ りゅう) 博士 (文学)

#### I. 書籍等出版物

1. 野家 啓一 翻訳編集委員長, 志野 好伸・周藤 多紀・前田 富士男・村上 龍・森 功次ほか 229名, 『スクリブナー思想史大事典』, 丸善出版, 2016年1月, 全4090ページ, 共訳, 「趣味」 / 「天才」 / 「美学」, 1618-1623ページ / 2431-2433ページ / 2731-2750ページ
2. 西村 清和 編・監訳, 櫻井 一成・吉成 優・相澤 照明・村上 龍・森 功次ほか4名, 『分析美学基本論文集』, 勁草書房, 2015年8月, 全445ページ, 共訳, ダニエル・ジェイコブソン (村上 龍訳) 「不道德な芸術礼賛」, 335-410ページ

## II. 論文

1. 村上 龍, 「かくも大きく立派な地位を感性にさずける心理学」(2): 晩期ベルクソン哲学における「感性」概念, 『山口大学哲学研究』, 27巻, 2020年3月, 83-108ページ, 査読無し
2. 村上 龍, 「かくも大きく立派な地位を感性にさずける心理学」(1): 晩期ベルクソン哲学における「感性」概念, 『山口大学哲学研究』, 26巻, 2019年3月, 1-18ページ, 査読無し
3. 村上 龍, 「初期ベルクソン哲学における「感性」概念:19世紀末の「心理学講義」を中心に」, 『山口大学哲学研究』, 25巻, 2018年3月, 1-22ページ, 査読無し
4. 村上 龍, 「ジュール・ラシュリエの「ポスト・カンティスム」: 19世紀フランスにおける近代ドイツ哲学受容の一断面」, 『山口大学哲学研究』, 24巻, 2017年3月, 1-21ページ, 査読無し
5. MURAKAMI Ryu, 'A Study of the Bergsonian Notion of Sensibility', 『山口大学哲学研究』, 23巻, 2016年3月, 22-28ページ, 査読無し

## III. 研究ノート・書評等

1. 村上 龍, (エッセイ), 「平成の「呼びかけ」／令和の「応答」」, 『現代思想』, 47巻7号, 2019年5月, 230ページ, 査読無し, 招待有り
2. 村上 龍, (書評), 「「芸術の終焉」後の状況下で掲げるべき歴史＝物語から自由な多元主義の原理」, 『図書新聞』, 3322号, 2017年10月, 3ページ, 査読無し, 招待有り

## IV. 講演・口頭発表等

なし

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 村上 龍, 近代フランス美学の再検討: ドイツ哲学との関係という視点から, 25770035, 若手研究(B), 代表者, 2016年
2. 村上 龍, 近代フランス美学の再検討: ドイツ哲学との関係という視点から, 25770035, 若手研究(B), 代表者, 2015年

## VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

なし

横田 蔵人(よこた くらと) 博士(文学)

## I. 書籍等出版物

なし

## II. 論文

1. 横田 蔵人, 「徳なき思慮はない: トマス, スコトゥス, アウレオリと実践的判断」, 『山口大学哲学研究』, 27巻, 2020年3月, 77-90ページ, 査読無し
2. 横田 蔵人, 「「塵あくたにすぎないわたしですが」: トマス・アキナスの謙遜論」, 『山口大学哲学研究』, 25巻, 2018年5月, 61-82ページ, 査読無し



### III. 研究ノート・書評等

1. 横田 蔵人, (解説, 話題, 教育, 研究), 「内と外の線引き問題: 人間の場合から」, 『山口大学 環境保全』, 34号, 2018年12月, 17-18ページ, 査読無し, 招待有り
2. 横田 蔵人, (解説, 話題, 教育, 研究), 「古代思想における環境破壊」, 『山口大学 環境保全』, 33号, 2017年12月, 10-12ページ, 査読無し, 招待有り
3. 横田 蔵人, (解説, 話題, 教育, 研究), 「『ラウダート・シ』の環境倫理」, 『山口大学 環境保全』, 32号, 2016年12月, 10-14ページ, 査読無し, 招待有り
4. 横田 蔵人, (解説, 話題, 教育, 研究), 「現代英米圏の環境倫理の展望: クリスティン・シュレーダー=フレチェットによって」, 『山口大学 環境保全』, 31号, 2015年12月, 14-17ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

なし

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

なし

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## 歴史学講座

馬 彪 (ま ひょう) 博士 (歴史学)

### I. 書籍等出版物

1. 馬 彪・張 伟国等, 『经典之门 历史地理篇』, 华夏出版社, 2019年9月, 全346ページ, 共著
2. 馬 彪・林 元茂, 『亙古漆香: 欣賞傳世漆藝 品味傳統文化』, 中華書局, 2018年4月, 全366ページ, 共著
3. 馬 彪, 『中国史学史』, 上海古籍出版社, 2017年11月, 全455ページ, 単訳
4. 馬 彪等, 『經典之門: 新視野中華經典導讀歷史地理篇』, 中華書局, 2017年5月, 全335+16ページ, 共著
5. 山口大学大学院東アジア研究科編, 馬 彪・阿部 泰記編集責任, 何 曉毅・姚 繼中・桂 勝・葉 濤・安 美貞ほか7名, 『東アジア伝統の継承と交流』 (山口大学大学院東アジア研究科東アジア研究叢書3), 白帝社, 2016年3月, 全308ページ, 共編著, 「東アジア伝統の「統」「伝」「格」について」 / 「中国上古三代城郭制の伝統の形成とその性格」, iii-x / 2-27ページ

### II. 論文

1. 馬 彪, 「王莽における封国制改革の研究: その「空名」化改革の由来と特徴をめぐる」, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 1-23ページ, 査読無し
2. 馬 彪, 「試論新 (莽) 皇帝之改元、即位與建國宣言」, 『異文化研究』, 14号, 2020年3月, 15-23ページ, 査読無し
3. 馬 彪, 「王莽の長安都改造について」, 『研究論集』 (河合文化教育研究所), 36号, 2019年6月,

103-117ページ， 査読無し

4. 馬 彪・林 力娜 (Karine Chemla), 「秦・西漢容量「石」諸問題研究」, 『中国史研究』2018年第4期, 2018年12月, 41-58ページ, 査読有り
5. 馬 彪, 「對戰國秦漢都城的文獻探討」, Gimhae Bonghwangdong site Ancient East Asia, 2018年12月, 431-491ページ, 査読無し
6. 馬 彪, 「漢元帝以降前漢の「是古非今を好む」改革について:新莽復古改革の由来も含めて」, 『異文化研究』, 12号, 2018年3月, 26-46ページ, 査読無し
7. 馬 彪, 「光武の新莽に「困りて改めず」についての研究」, 『山口大学文学会志』, 68巻, 2018年3月, 1-30ページ, 査読無し
8. 馬 彪, 「中國漆器的形成、演變及其與日本漆器的交流」, 『異文化研究』, 11号, 2017年3月, 28-36ページ, 査読無し
9. 馬 彪, 「从秦简禁苑律重新认识秦代上林苑」, 『唐都学刊』, 32卷6号, 2016年12月, 78-88ページ, 査読有り
10. 馬 彪, 「お箸の平衡主義文化論序説」, 『異文化研究』, 10号, 2016年3月, 35-46ページ, 査読無し
11. 馬 彪, 「始皇帝西巡の線路及び沿線禁苑について」, 『山口大学文学会志』, 66巻, 2016年3月, 19-35ページ, 査読無し
12. MA Biao, 'The Question of 'Pangxing 旁行' and 'Xieshang 邪上'in Shiji's 史記 'Sandai shibiao' historical table', *EASTM* 43, 2016年, 123-148ページ, 査読有り
13. 馬 彪, 「城址と墓葬に見る楚王城の禁苑及び雲夢宮の性格」, 『都市と環境の歴史学 [増補版]』, 第3集, 2015年7月, 5-30ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

1. 馬 彪, (国際学会報告), 「加耶遺蹟をめぐる都城史研究の国際交流」, 『2019年異文化交流研究施設ニューズレター』, 20号, 2019年8月, 2ページ, 査読無し
2. 馬 彪, (web連載), 「「箸文化圏」における箸文化のバランス意識」, 『幻冬舎ルネッサンス・アカデミー web連載』, 2018/08/03 ~08/31 第1-5回, 査読無し  
<http://www.gentosha-academy.com/serial/beautiful-nippon-1-2-3/>  
<http://www.gentosha-academy.com/serial/beautiful-nippon-1-2-3-2/>  
<http://www.gentosha-academy.com/serial/beautiful-nippon-1-2-3-2-3/>  
[http://www.gentosha-academy.com/serial/beautiful-nippon-1-2-3-2-2-3-2/](http://www.gentosha-academy.com/serial/beautiful-nippon-1-2-3-2-2-3/)

### IV. 講演・口頭発表等

1. 馬 彪, 中国古代的「標準化」改革, 寧夏師範大学政治与歴史学院講演会, 寧夏師範大学・寧夏回族自治区 (中国), 2019年9月6日, 口頭, 招待有り
2. 馬 彪, 「規矩」「方圓」与「標準化」二三題, 寧夏大学「博学講壇」第26講, 寧夏大学・寧夏回族自治区 (中国), 2019年9月4日, 口頭, 招待有り
3. 馬 彪, 「社会史研究方法縦横談」, 「蘭山講壇」第16場, 寧夏大学・寧夏回族自治区 (中国), 2019年9月4日, 口頭, 招待有り
4. 馬 彪, 「中国における湖南研究の動向」, 内藤湖南研究会, 河合塾京都校・京都市, 2019年1月12日, 口頭
5. 馬 彪, 「傳統箸文化平衡主義意識」, 江蘇師範大學外国語学院講演会, 江蘇師範大學・徐州市 (中国), 2018年5月4日, 口頭
6. 馬 彪, 「對戰國秦漢都城的文獻探討」, 第24回加耶史国際学術会議, 韓國仁濟大學校 加耶文化研究所・金海市 (韓国), 2018年4月28日, 口頭
7. 馬 彪, 「錢婉約氏の『内藤湖南研究』を読む」, 内藤湖南研究会, 河合塾京都校・京都市, 2016年4月9日, 口頭

## V. 受賞

1. 馬 彪, 2019年度中国图书年度奖「好书奖」, 中国出版协会『精品阅读』杂志社, 2020年1月
2. 馬 彪, 2019年度中国图书年度賞「教師愛読100書のTop10」, 中華人民共和国教育部所管『中国教育新聞』社, 2020年1月

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 馬 彪, 王莽の「新」帝国を創建する標準化改革についての出土文物・文字による研究, 17K03133, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 馬 彪, 王莽の「新」帝国を創建する標準化改革についての出土文物・文字による研究, 17K03133, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. 馬 彪, 王莽の「新」帝国を創建する標準化改革についての出土文物・文字による研究, 17K03133, 基盤研究(C), 代表者, 2017年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## 田中 晋作 (たなか しんさく) 博士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編, 森本 徹・寺沢 薫・西藤 清秀・青木 勘時・田中 晋作ほか73名, 『白石太一郎先生傘寿記念論文集 古墳と国家形成期の諸問題』, 山川出版社, 2019年10月, 全455ページ, 分担執筆, 「古市古墳群「中・小型主墳」の被葬者の性格」, 34-38ページ
2. 藤田 和尊『古墳時代政権の地方管理経営戦略』, 学生社, 2019年7月, 全230ページ, その他 (解題), 「藤田和尊著『古墳時代政権の地方管理経営戦略』について: 解題にかえて」, 217-228ページ
3. 田中 晋作編, 高橋 工, 塚本 敏夫, 藤田 和尊, 太田 宏明, 趙 晟元ほか2名, 「平成28～30年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究: 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査」(課題番号: 16H03507) 研究成果報告書『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究: 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査』(付帯研究編)」, 山口大学人文学部, 2019年3月, 全206ページ, 編著
4. 泉森皎先生喜寿記念会編, 泉森 皎・山口 卓也・青山 航・森岡 秀人・田中 晋作ほか28名, 『泉森皎先生喜寿記念論集』, 泉森皎先生喜寿記念会, 2018年11月, 全375ページ, 分担執筆, 「古市古墳群高塚山古墳の調査について」, 159-169ページ
5. 中国四国前方後円墳研究会編, 古瀬 清秀・岩本 崇・澤田 秀実・米田 克彦・田中 晋作ほか18名, 『前期古墳編年を再考する』, 六一書房, 2018年5月, 全402ページ, 分担執筆, 「古墳時代の政権構造: 大和盆地東南部の勢力から佐紀・馬見古墳群の勢力へ」, 261-272ページ
6. 塚口義信博士古稀記念会編, 塚口 義信・生田 敦司・市 大樹・荊木 美行・田中 晋作ほか42名, 『塚口義信博士古稀記念日本古代学論叢』, 和泉書院, 2016年11月, 全560ページ, 分担執筆, 「和泉地域に投影された政権中枢勢力の動静」, 475-484ページ
7. 河上邦彦先生古稀記念会編, 相原 嘉之・青木 美香・尼子 奈美枝・伊藤 雅文・田中 晋作ほか44名, 『河上邦彦先生古稀記念献呈論文集』, 河上邦彦先生古稀記念会, 2015年5月, 全655ページ, 分担執筆, 「南山城南部地域に投影された政権中枢勢力動静」, 311-323ページ

### II. 論文

1. 田中 晋作, 「古市古墳群高塚山古墳の調査について」, 『大阪春秋』, 177号, 2019年12月, 60-63ページ, 査読無し
2. 田中 晋作, 「今城塚古墳と新興中小規模勢力の動静」, 『橿原考古学研究所論集 創立80周年記念:

- 空間・ひと・装飾』, 17号, 2018年9月, 40-47ページ, 査読無し
3. 田中 晋作, 「武器の拡散にみる地域間関係」, 『古代武器研究』, 13号, 2017年12月, 5-20ページ, 査読無し
  4. 田中 晋作, 「古墳時代中期の鎧出土古墳について: 百舌鳥・古市古墳群の勢力のもとに編制された軍事組織の特質」, 『古代学研究』, 214号, 2017年10月, 1-22ページ, 査読有り
  5. 田中 晋作, 「古墳時代前期後半における畿内政権内の主導権をめぐる確執」, 『山口考古』, 36号, 2016年7月, 55-64ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 田中 晋作, 「古墳時代の政権交替を考える」, 古代学研究会4月例会, アネックスパル法円坂・大阪市, 2019年4月21日, 口頭
2. 田中 晋作, 「古墳時代における政権交替」, 古墳文化研究会, 忠北大学校・清州市 (韓国), 2019年3月23日, 口頭, 招待有り
3. 田中 晋作, 「武器の拡散にみる地域間関係」, 第13回古代武器研究会, 山口大学・山口市, 2016年12月3日, 口頭
4. 田中 晋作, 「古墳時代前期の政権構造」, 中国四国前方後円墳研究会第19回研究集会, 山口大学・山口市, 2016年11月26日, 口頭

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 田中 晋作, 高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究, 17H00834, 基盤研究(A), 分担者, 2019年
2. 田中 晋作, 古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究: 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査, 16H03507, 基盤研究(B), 代表者, 2018年
3. 田中 晋作, 高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究, 17H00834, 基盤研究(A), 分担者, 2018年
4. 田中 晋作, 古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究: 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査, 16H03507, 基盤研究(B), 代表者, 2017年
5. 田中 晋作, 高精度同位体比分析装置を用いた古代日本における青銅器原料の産地と採鉱状況の研究, 17H00834, 基盤研究(A), 分担者, 2017年
6. 田中 晋作, 古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究: 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査, 16H03507, 基盤研究(B), 代表者, 2016年

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 田中 晋作, 「公開学術講演会「SDGs (持続可能な開発目標) の実現に向けた地域研究とイノベーション研究」」, 日本学術会議中国四国地区会議, 山口大学・山口市, 2019年11月16日, 口頭, 招待有り
2. 田中 晋作, 「世界遺産百舌鳥・古市古墳群と桜塚古墳群の被葬者たち」, 摂津豊中大塚古墳出土品平成の保存修理完成記念, 豊中市中央公民館・豊中市, 2019年11月9日, 口頭, 招待有り
3. 田中 晋作, 「大和のくにづくり」, 東京新聞フォーラム「しきしまの大和へ」, 古代オリエント博物館・豊島区, 2019年10月5日, 口頭, 招待有り
4. 田中 晋作, 「パネルディスカッション」, シンポジウム世界文化遺産へのあゆみ 百舌鳥古市古墳群と関西大学, 東京コンベンションホール・中央区, 2019年7月28日, シンポジウム

5. 田中 晋作, 「パネルディスカッション」, シンポジウム世界文化遺産へのあゆみ 百舌鳥古市古墳群と関西大学, 関西大学・吹田市, 2019年7月15日, シンポジウム
6. 田中 晋作, 「古墳時代の政権交替と軍事」, 初期国家形成期の武装 (岡山県古代吉備文化財センター), 岡山県立美術館・岡山市, 2019年1月20日, 公開講演, 招待有り
7. 田中 晋作, 「古墳時代の軍事と外交」, 平成30年度みよし風土記の丘文化財講座, 広島県立歴史民俗資料館・三次市, 2018年11月17日, 公開講演, 招待有り
8. 田中 晋作, 「ヤマト王権の政権争奪と軍事」, 大阪府立近つ飛鳥博物館平成30年度秋期特別展講演会, 大阪府立近つ飛鳥博物館・河南町, 2018年11月11日, 公開講演, 招待有り
9. 田中 晋作, 「倭の五王を支えた軍事勢力と東アジア情勢」, 下関市立考古博物館一般教養講座, 下関市立考古博物館・下関市, 2017年11月5日, 公開講演
10. 田中 晋作, 「大王を支えた中小規模古墳の被葬者」, 世界遺産講座VI (羽曳野市教育委員会), L I Cはびきの・羽曳野市, 2016年6月8日, 公開講演
11. 田中 晋作, 「島の山古墳と畿内政権」, 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館春季特別展「やまとのみやけと女性司祭者」記念シンポジウム, 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・橿原市, 2016年5月15日, 口頭, 招待有り
12. 田中 晋作, 「百舌鳥・古市古墳群と畿内政権」, 第6回百舌古墳群講演会「検証 河内政権論:なぜ百舌鳥に大王陵が築かれたのか」(堺市文化観光局), 堺市産業振興センター・堺市, 2016年3月21日, 公開講演
13. 田中 晋作, 「百舌鳥・古市古墳群と東アジア」, 堺がめざす世界文化遺産:これまでとこれからを考える(関西大学・堺市), 関西大学東京センター・千代田区, 2015年11月14日, 公開講演, 招待有り
14. 田中 晋作, 「古墳時代の猪名川流域」, 「伊丹市立博物館友の会」発足20周年記念「猪名川流域の古代を考える」, 伊丹市立博物館・伊丹市, 2015年10月25日, 公開講演, 招待有り

竹中 幸史 (たけなか こうじ) 博士 (文学)

## I. 書籍等出版物

1. 上垣 豊編, 函師 宣忠・黒岩 三恵・小山 恵子・嶋中 博章・竹中 幸史ほか12名, 『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』, ミネルヴァ書房, 2020年3月, 全313ページ, 分担執筆, 第5章「啓蒙とロココの世紀」/第6章「フランス革命期の文化, フランス革命という文化」, 101-116 / 126-142ページ
2. 谷川 稔・川島 昭夫・南 直人・金澤 周作編, 谷口 健治・姫岡 とし子・渡辺 和行・上垣 豊・竹中 幸史ほか50名, 『越境する歴史家たちへ:「近代社会史研究会」(1985-2018)からのオマージュ』, ミネルヴァ書房, 2019年6月, 全349ページ, 分担執筆, 第4章「近社研と出会う:普通の会員として」, 222-224ページ
3. 南塚 信吾・秋田 茂・高澤 紀恵編, 秋山 晋吾・浅田 進史・木村 真・長縄 宣博・竹中 幸史ほか94名, 『新しく学ぶ西洋史:アジアから考える』, ミネルヴァ書房, 2016年2月, 全397ページ, 分担執筆, 第4章コラム「革命史研究のスタートとゴール」, 105ページ
4. 杉本 淑彦・竹中 幸史編, 長井 伸仁・岡部 造史・中山 俊・工藤 晶人・渡辺 和行ほか8名, 『教養のフランス近現代史』, ミネルヴァ書房, 2015年6月, ミネルヴァ書房, 全348ページ, 共編著, 「はじめに」/序章「フランス近現代史に何を見るか:多様にして连接的な共和国」/第1章「アンシアン・レジームの光と影」/第2章「フランス革命の衝撃」, 1-39ページ

## II. 論文

1. TAKENAKA Koji, 'La Révolution de l'espace : Les rues, les fêtes et les arbres de la liberté à Rouen en l'an II', *La Révolution française vue de l'Asie : Etat actuel des recherches sur la Révolution en Corée et au Japon Communications et commentaires*, 2020年2月, 77-87ページ, 査読無し, 招待有り
2. 竹中 幸史, 「空間の脱宗教化と世俗化:フランス革命期の地名変更」, 『東欧史研究』, 40号, 2018

年3月, 153-164ページ, 査読有り

3. 竹中 幸史, 「フランス革命:断絶と持続」, 『日本18世紀学会年報』, 32号, 2017年6月, 12-14ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

1. 竹中 幸史, (問題提起), 「フランス革命期の教育と祭典」, 『人文学の再構築 報告書』, 5巻, 2020年2月, 17-29ページ, 査読無し, 招待有り
2. 竹中 幸史, (書評), 「松浦義弘著『フランス革命とパリの民衆:「世論」から「革命政府」を問い直す』」, 『西洋史学』, 264号, 2017年12月, 229-232ページ, 査読有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. 竹中 幸史, 「山崎耕一著『フランス革命——「共和国の誕生』」:日本におけるフランス革命史研究における本書の位置」, フランス革命研究会, 専修大学・千代田区, 2019年12月14日, 口頭
2. 竹中 幸史, 「自由・平等・友愛の夢:フランス革命期の国民祭典」, 第4回博覧会を歴史に学ぶセミナー, うめきたホール・大阪市, 2019年10月31日, 公開講演, 招待有り
3. 竹中 幸史, 「空間の革命:共和暦2年ルアンにおける街路, 祭典, 自由の木」, シンポジウム アジアから見たフランス革命, 成蹊大学・武蔵野市, 2019年8月29日, 口頭
4. 竹中 幸史, 「空間の世俗化と革命化:フランス革命期の地名変更」, 第180回関西フランス史研究会, 京都大学・京都市, 2019年4月20日, 口頭
5. 竹中 幸史, 「フランス革命期の「教育」と祭典:共和暦2年の文化革命」, 中部高等学術研究所「人文学の再構築」第5回研究会, 中部大学・春日井市, 2018年12月15日, 口頭
6. 竹中 幸史, 「フランス革命:断絶と持続」, 日本18世紀学会第38回全国大会シンポジウム「18世紀:持続と切断」, 愛知県立大学・長久手市, 2016年6月19日, 口頭, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 竹中 幸史, フランス国旗・国歌の歴史学:基礎的研究, 18K01035, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 竹中 幸史, フランス国旗・国歌の歴史学:基礎的研究, 18K01035, 基盤研究(C), 代表者, 2018年

### VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

1. 竹中 幸史, 「ヨーロッパにおける『時間厳守』のモラル:時計・鉄道・工場」, 第16回山口大学時間学研究所/時間学カフェ, 山口大学・山口市, 2019年11月19日, セミナー, 招待有り
2. 竹中 幸史, 「フランス革命と7月14日」, 山口日仏協会特別講演, 山口大学・山口市, 2019年7月14日, 口頭, 招待有り

真木 隆行(まき たかゆき) 博士(文学)

### I. 書籍等出版物

1. 川岡 勉・真木 隆行・真木 奈美・田村 杏士郎・野下 俊樹, 『大内氏受発給文書目録』, 山口市, 2020年3月, 全140ページ, その他, 1-140ページ
2. 神仏分離150年シンポジウム実行委員会編, 島菌 進・真木 隆行・上野 大輔・木村 延崇・稲田 秀雄, 『神仏分離を問い直す』, 法蔵館, 2020年2月, 全192ページ, 分担執筆, 「中世における神仏習合の世界観」, 43-76ページ

3. 大内氏歴史文化研究会編, 伊藤 幸司・真木 隆行・荏開津 通彦・尾崎 千佳・川岡 勉ほか14名, 『大内氏の世界をさぐる: 室町戦国日本の覇者』, 勉誠出版, 2019年7月, 全404ページ, 分担執筆, 「大内氏と寺社」/「氷上山興隆寺の旧境内」, 57-73 / 74-77ページ
4. 川岡 勉・西尾 和美・真木 隆行・伊藤 幸司・大谷 史子, 『山口市史 史料編 中世』, 山口市, 2016年3月, 全1055ページ, 分担執筆/その他, 解説 第1章「平安末期～鎌倉期」/本文第1章「平安末期～鎌倉期」/第2章～第5章の調査翻刻等, 5-12 / 54-130 / 133-1045ページ
5. 真木 隆行・伊藤 幸司・荏開津 通彦・池田 勇太・石田 俊, 『大内氏歴史文化研究会資料調査報告書第1集 洞春寺歴史資料仮目録 山口大学との共同調査』, 山口市教育委員会文化財保護課, 2016年3月, 全103ページ, 分担執筆, 第1部第2章「洞春寺関係史料群の調査経緯」/第1部第3章1「洞春寺の中世文書」, 7-12 / 13-24ページ, および, 共編, 第2部第1章「洞春寺の文書目録」, 47-87ページ
6. 黒田 俊雄編, 平 雅行・久野 修義・馬田 綾子・大石 雅章・真木 隆行ほか5名, 『訳注日本史料 寺院法』, 集英社, 2015年5月, 全1311ページ, 分担執筆, 巻頭『寺院法』解説/第2編第1章第1節/第2編第2章/補注, 23-24 / 174-208 / 314-332 / 924-942 / 983-995ページ

## II. 論文

1. 真木 隆行, 「法皇院政とその出家儀礼の確立: 白河院と鳥羽院の出家」, 『アジア遊学』, 206号 (宗教と儀礼の東アジア: 交錯する儒教・仏教・道教), 2017年3月, 230-245ページ, 査読無し, 招待有り
2. 真木 隆行, 「中世長門周防の神々と八幡縁起」, 『潮流』, 126号, 2016年3月, 2-4ページ, 査読無し, 招待有り

## III. 研究ノート・書評等

1. 真木 隆行, (史料紹介), 「山口市史 (中世編) の今八幡宮史料調査」, 『鴻城鎮護』, 126号, 2016年3月, 2-4ページ, 査読無し, 招待有り

## IV. 講演・口頭発表等

1. 真木 隆行, 「平安時代末期における上皇出家の質的変容」, 時間学国際シンポジウム2018「中世日本の時間意識」, 山口大学・山口市, 2018年8月3日, 口頭
2. 真木 隆行, 「中宮徳子の御産とその御祈」, 関西大学東西学術研究所研究例会, 関西大学・吹田市, 2016年1月22日, 口頭
3. 真木 隆行, 「法体と俗体の大内氏権力」, 日本宗教史懇話会サマーセミナー, ホテル三河海陽閣・蒲郡市, 2015年8月24日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

なし

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

滝野 正二郎 (たきの しょうじろう) 修士 (文学)

## I. 書籍等出版物

なし

## II. 論文

なし

## III. 研究ノート・書評等

なし

## IV. 講演・口頭発表等

1. 滝野 正二郎, 「清代嘉慶二〇年、淮安関・潞墅関における流通経路の指定について」, 平成30年度九州史学会大会東洋史部会, 九州大学・福岡市, 2018年12月9日, 口頭
2. 滝野 正二郎, 「明代抽分竹木廠の徴課・抽取業務について」, 広島史学研究会大会東洋史部会, 広島大学・東広島市, 2017年10月29日, 口頭, 招待有り
3. 滝野 正二郎, 「明代抽分竹木廠の抽取・徴課業務について: 蕪湖・杭州両廠を中心に」, 東洋史学研究会, 福岡大学・福岡市, 2015年11月28日, 口頭, 招待有り

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

なし

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

村田 裕一 (むらた ひろかず) 修士 (文学)

## I. 書籍等出版物

なし

## II. 論文

なし

## III. 研究ノート・書評等

なし

## IV. 講演・口頭発表等

なし

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 村田 裕一, 道具組成からみた弥生時代山陰地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究, 17K03209, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 村田 裕一, 道具組成からみた弥生時代山陰地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究, 17K03209, 基盤研究(C), 代表者, 2018年



3. 村田 裕一, 道具組成からみた弥生時代山陰地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究, 17K03209, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
4. 村田 裕一, 道具組成からみた弥生時代瀬戸内地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究, 26370896, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
5. 村田 裕一, 道具組成からみた弥生時代瀬戸内地域における地域性成立と交流・鉄器化進行過程の研究, 26370896, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

**池田 勇太 (いけだ ゆうた) 博士 (文学)**

### I. 書籍等出版物

1. 神仏分離150年シンポジウム実行委員会編, 島菌 進・真木 隆行・上野 大輔・木村 延崇・池田 勇太, 『神仏分離を問い直す』, 法蔵館, 2020年2月, 全192ページ, 分担執筆, 「神仏分離をどう考えるか」, 177-188ページ
2. 小林 和幸編, 久住 真也・池田 勇太・西川 誠・真辺 将之・千葉 功ほか26名, 『明治史研究の最前線』, 筑摩書房, 2020年1月, 全270ページ, 分担執筆, コラム2「幕末公議研究の論点」, 39-42ページ
3. 小林 和幸編, 久住 真也・池田 勇太・友田 昌宏・落合 弘樹・大島 明子ほか15名, 『明治史講義【テーマ篇】』, 筑摩書房, 2018年3月, 全366ページ, 分担執筆, 第2講「幕末雄藩と公議政体論: 「公議」の運動からみる幕末政治」, 29-43ページ
4. 塩出 浩之編, 朴 薫・上田 純子・三ツ松 誠・福岡 万里子・池田 勇太ほか4名, 『公論と交際の東アジア近代』, 東京大学出版会, 2016年10月, 全287ページ, 分担執筆, 「明治初年の開化論と公論空間」, 141-166ページ
5. 真木 隆行・伊藤 幸司・荏開津 通彦・池田 勇太・石田 俊, 『大内氏歴史文化研究会資料調査報告書第1集 洞春寺歴史資料仮目録 山口大学との共同調査』, 山口市教育委員会文化財保護課, 2016年3月, 全103ページ, 分担執筆, 第1部第3章3「洞春寺の幕末～近代文書」, 31-36ページ, および, 共編, 第2部第1章「洞春寺の文書目録」, 47-87ページ
6. 飯田市歴史研究所編, 森 武磨・池田 勇太・齊藤 俊江・田中 雅孝・安岡 健一ほか2名, 『戦争と養蚕の時代をかたる』, 飯田市歴史研究所, 2016年3月, 全288ページ, その他, 21-78ページ
7. 「胡桃澤盛日記」刊行会編, 池田 勇太・伊坪 俊雄・胡桃澤 健・齊藤 俊江・田中 雅孝ほか2名, 『胡桃澤盛日記の周辺: 胡桃澤盛日記・別巻』, 「胡桃澤盛日記」刊行会, 2015年8月, 全295ページ, その他, 5-78ページ

### II. 論文

1. 池田 勇太, 「「卓越」と衆議: 王政復古後の立花壱岐」, 『明治維新史研究』, 17号, 2019年11月, 50-69ページ, 査読有り, 招待有り
2. 池田 勇太, 「元田永孚における開国論への転換」, 『異文化研究』, 11号, 2017年3月, 54-67ページ, 査読無し
3. 池田 勇太, 「明治国家と儒教」, 『歴史と地理 日本史の研究』, 252号, 2016年3月, 31-40ページ, 査読無し, 招待有り
4. 池田 勇太, 「政体 (東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター原資料部所蔵「安場保和関係文書」所収)」, 『史学雑誌』, 125編2号, 2016年2月, 61-79ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

1. 池田 勇太, (歴史講演会), 「版籍奉還と明治維新: 領主制の廃棄と山口藩」, 『佐波の里』, 48号, 2020年3月, 30-39ページ, 査読無し, 招待有り

2. 池田 勇太, (書評), 「大阪大学会沢正志齋書簡研究会編『会沢正志齋書簡集』, 『日本史研究』, 669号, 2018年5月, 60-66ページ, 査読無し, 招待有り
3. 池田 勇太, (書評), 「川口浩／ベティナー・グラムリヒ＝オカ編, 田中アユ子・安野正士訳『日米欧からみた近世日本の経済思想』, 『史学雑誌』, 124編6号, 2015年6月, 77-86ページ, 査読無し, 招待有り

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 池田 勇太, 「「卓越」と衆議：王政復古後の立花壱岐」, 明治維新史学会大会, 駒澤大学駒沢キャンパス・世田谷区, 2018年6月9日, シンポジウム, 招待有り
2. 池田 勇太, 「朴薫氏報告「東アジア史の経験からデモクラシーと公論を問い直す」へのコメント」, 「公議」研究会第1回シンポジウム, 立命館大学衣笠キャンパス・京都市, 2018年2月19日, その他, 招待有り
3. 池田 勇太, 「元田永孚の西洋観と国家像」, 日本史研究会2016年9月例会, 機関誌会館・京都市, 2016年9月18日, 口頭, 招待有り
4. 池田 勇太, 「維新変革史のなかの開化論」, 『公論と交際の東アジア近代』研究会, 東京大学出版会・目黒区, 2015年8月1日, 口頭

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 池田 勇太, 幕末維新政治史と儒教：熊本実学党の研究, 19K00977, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 池田 勇太, 「感情体制」と生きられた感情：エゴドキュメントに見る「近代性」, 19H01295, 基盤研究(B), 分担者, 2019年
3. 池田 勇太, 儒教的理想主義者・元田永孚の基礎的研究を通じた明治維新史像の再構築, 26770223, 若手研究(B), 代表者, 2016年
4. 池田 勇太, 儒教的理想主義者・元田永孚の基礎的研究を通じた明治維新史像の再構築, 26770223, 若手研究(B), 代表者, 2015年

#### VII. その他（特記すべき作品, 活動等）

1. 池田 勇太, 「版籍奉還と明治維新：領主制の廃棄と山口藩」, 防府史談会歴史講演会, 防府図書館・防府市, 2020年2月16日, 講演, 招待有り
2. 池田 勇太, 「公議の運動から見る幕末政治史」, 中央公民館歴史講座, 萩市中央公民館・萩市, 2019年11月22日, 講演, 招待有り
3. 池田 勇太, 「維新変革のなかの文明開化論」, 講座「近代国家とは何か」, 坂の上の雲ミュージアム・松山市, 2018年12月8日, 講演, 招待有り
4. 池田 勇太, 「幕末維新の歴史から何を読み取るか:政治と市場と道徳」, 第4回時習館市民講座「明治改元150年 幕末維新の歴史と私たち」, アクティブやない・柳井市, 2018年10月20日, シンポジウム, 招待有り
5. 池田 勇太, 「飯田市歴史研究所の活動について」, 山口県文書館地方調査員会議, 山口県立図書館・山口市, 2018年3月14日, 講演, 招待有り
6. 池田 勇太, 「幕末維新时期における洞春寺の変化」, 山口の文化財を守る会郷土史講座, 山口市大殿地域交流センター・山口市, 2018年3月11日, 講演, 招待有り
7. 池田 勇太, 「洞春寺の明治維新」, 洞春寺歴史資料講座, 洞春寺本堂・山口市, 2016年10月29日, 講演, 招待有り
8. 池田 勇太, 「幕末維新の志と学問」, 長門市立三隅中学校立志式講演, 長門市立三隅中学校・長門市, 2016年2月6日, 講演, 招待有り

9. 池田 勇太, 「手紙に見る大村益次郎」, 山口市歴史民俗資料館特別講演会, 山口市歴史民俗資料館・山口市, 2015年7月26日, 講演, 招待有り

石田 俊 (いしだ しゅん) 博士 (文学)

#### I. 書籍等出版物

1. 飯田 奈津子・内田 文恵・小林 准士・三宅 正浩・石田 俊ほか4名, 『不昧の手紙: 「大圓公手翰」を読む』, 松江市, 2020年3月, 全103ページ, 分担執筆, 「治郷、祝儀ものの取り扱いについて指示する」 / 「治郷、鶴太郎の縁談について指示する」 / 「治郷、子供たちの外出の供について意見する」 / 「治郷、じきに出生する子の名前について指示をする」 / 「治郷、弟の衍親の帰国について気遣う」 / 「不昧、息子久三郎の養子先について指示を出す」 / 「不昧、側妾や子供の子の行く末について意見する」, 20-21 / 24-27 / 30-37 / 78-81 / 86-89ページ
2. 竹内 誠・深井 雅海・松尾 美恵子・藤田 英昭編, 小宮山 敏和・崎山 健文・吉川 美穂・高田 綾子・石田 俊ほか6名, 『論集 大奥人物研究』, 東京堂出版, 2019年10月, 全504ページ, 分担執筆, 「桂昌院と寺院: 長命寺穀屋の尼僧との関わりをめぐって」, 304-319ページ
3. 小林 准士・佐々木 倫朗・西島 太郎・三宅 正浩・石田 俊ほか6名, 『松江市史 通史編3 近世1』, 松江市, 2019年3月, 全779ページ, 分担執筆, 第1章第4節「松江松平家の世界」 / コラム「松平宗衍の行状」, 123-183ページ
4. 倉本 一宏編, 松菌 斉・石田 俊・佐野 真由子・奈良岡 聰智・久富木原 玲ほか4名, 『日本人にとって日記とは何か』, 臨川書店, 2016年7月, 全276ページ, 分担執筆, 「日記が語る近世史: 近世公家日記の記述から」, 71-96ページ
5. 真木 隆行・伊藤 幸司・荏開津 通彦・池田 勇太・石田 俊, 『大内氏歴史文化研究会資料調査報告書第1集 洞春寺歴史資料仮目録 山口大学との共同調査』, 山口市教育委員会文化財保護課, 2016年3月, 全103ページ, 分担執筆, 第1部第3章2「洞春寺の近世文書」, 25-30ページ, および, 共編, 第2部第1章「洞春寺の文書目録」, 47-87ページ

#### II. 論文

1. 石田 俊, 「松平宣維室天岳院の立場と役割」, 『松江市史研究』, 9号, 2018年3月, 7-18ページ, 査読無し

#### III. 研究ノート・書評等

1. 石田 俊, (回顧と展望), 「2018年の歴史学界——回顧と展望: 日本(近世)身分・ジェンダー」, 『史学雑誌』, 128編5号, 2019年5月, 139-141ページ, 査読無し
2. 石田 俊, (書評), 「村和明著『近世の朝廷制度と朝幕関係』」, 『史学雑誌』, 124編2号, 2015年2月, 269-276ページ, 査読無し, 招待有り

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 石田 俊, 「萩藩における公武婚」, 読史会大会, 京都大学・京都市, 2017年11月3日, 口頭
2. 石田 俊, 「近世史部会 藩主幼少期における大名正室の役割: 松江藩松平宣維室天岳院を中心に」, 日本史研究会近世史部会, 機関紙会館・京都市, 2016年2月17日, 口頭

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 石田 俊, 近世公武婚の総合的研究, 16K16905, 若手研究(B), 代表者, 2019年
2. 石田 俊, 近世公武論の総合的研究, 16K16905, 若手研究(B), 代表者, 2018年

3. 石田 俊, 近世公武論の総合的研究, 16K16905, 若手研究(B), 代表者, 2017年
4. 石田 俊, 近世公武論の総合的研究, 16K16905, 若手研究(B), 代表者, 2016年
5. 石田 俊, 近世公武社会の奥向きの形成・展開に関する研究, 26770224, 若手研究 (B), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

南雲 泰輔 (なぐも たいすけ) 博士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 藤原 辰史編, 中西 竜也・小野 容照・三俣 延子・友松 夕香・南雲 泰輔ほか17名, 『歴史書の愉悅』, ナカニシヤ出版, 2019年7月, 全272ページ, 分担執筆, 「人間への好奇心を新たにする: モミリアーノ『伝記文学の誕生』」, 191-201ページ
2. 南川 高志編, 加納 修・佐川 英治・南雲 泰輔・藤井 律之, 『378年: 失われた古代帝国の秩序 (歴史の転換期2)』, 山川出版社, 2018年6月, 全296ページ, 分担執筆, 第3章「ビザンツの世界秩序の形成」/コラム「帝都は一日にして成らず: 『コンスタンティノーブル市要録』」, 124-173/174-175ページ
3. 南雲 泰輔, 『ローマ帝国の東西分裂』, 岩波書店, 2016年3月, 全336ページ, 単著
4. MINAMIKAWA Takashi (ed.), Mischa MEIER, NAGUMO Taisuke, John WEISWEILER, TANAKA Hajime, INOUE Fuminoriほか6名, *New Approaches to the Later Roman Empire*, Kyoto: Kyoto University, 2015年9月, 全195ページ, 共著, 'Comment: 'Late Antiquity' and Japanese Perspectives', 27-30ページ

### II. 論文

1. 南雲 泰輔, 「西洋古代史の時代区分と「古代末期」概念の新展開」, 『思想』, 1149号 (2020年1月号「時代区分論」), 2020年1月, 15-35ページ, 査読無し, 招待有り
2. 南雲 泰輔, 「クルスス・プブリクスとポイティンガー図: 後期ローマ帝国時代の街道とその図示 (合同部会 3-8世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と受容)」, 『歴史学研究』, 950号, 2016年10月, 147-155ページ, 査読無し, 招待有り

### III. 研究ノート・書評等

1. 南雲 泰輔, (書評), 「Emma Dench, *Empire and Political Cultures in the Roman World*」, 『西洋古典学研究』, 68巻, 2020年3月, 146-149ページ, 査読無し, 招待有り
2. 南雲 泰輔, (書評), 「Richard Talbert, *Roman Portable Sundials: The Empire in Your Hand*」, 『西洋古代史研究』, 19号, 2019年12月, 51-60ページ, 査読無し
3. 南雲 泰輔, (書評), 「坂口明・豊田浩志編『古代ローマの港町: オスティア・アンティカ研究の最前線』」, 『古代文化』, 70巻2号, 2018年9月, 285-287ページ, 査読有り
4. 南雲 泰輔, (書評), 「Lukas Lemcke, *Imperial Transportation and Communication from the Third to the Late Fourth Century*」, 『異文化研究』, 12号, 2018年3月, 91-98ページ, 査読無し
5. 南雲 泰輔, (書評), 「井上文則著『軍人皇帝のローマ: 変貌する元老院と帝国の衰亡』」, 『西洋史学』, 263号, 2017年6月, 64-66ページ, 査読有り
6. 南雲 泰輔, (書評), 「Martha Malamud, *Rutilius Namatianus' Going Home: De reditu suo, translated and with an Introductory Essay*」, 『西洋古代史研究』, 16号, 2016年12月, 49-55ページ, 査読無し
7. 南雲 泰輔, (遺跡を旅する), 「ウァレンス水道橋: イスタンブールのインフラ遺跡の今」, 『西洋古代史研究』, 15号, 2015年12月, 57-63ページ, 査読無し

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 南雲 泰輔, 「ポイティンガー図とアントニヌス旅程表：後期ローマ帝国時代における地理的情報の継受の態様」, 第18回古代史研究会大会, 京都大学・京都市, 2019年12月22日, 口頭
2. NAGUMO Taisuke, 'Two "Late Antiquities" since 2015: Reconsidering the Periodization from Antiquity to the Mediaeval Ages', International Conference "Negotiating the Time", 西江大学校・ソウル市 (韓国), 2018年10月27日, シンポジウム
3. 南雲 泰輔, 「後期ローマ帝国時代のメンタル・マップをどう理解するか：ポイティンガー図をめぐる近年の研究動向」, 第16回日本ビザンツ学会大会, 石川県政記念しいのき迎賓館・金沢市, 2018年3月26日, 口頭
4. 南雲 泰輔, 「西洋古代史の時代区分と「古代末期」概念(シンポジウム「西洋史における時代区分）」, 第85回西洋史読書会大会, 京都大学・京都市, 2017年11月3日, シンポジウム
5. 南雲 泰輔, 「クルスス・プブリクスとポイティンガー図：後期ローマ帝国時代の街道とその図示(合同部会「3-8世紀における地中海世界を中心とした政治的コミュニケーションの断絶と受容）」, 2016年度歴史学研究会大会, 明治大学・千代田区, 2016年5月29日, シンポジウム
6. 南雲 泰輔, 「ウァレンス水道橋の完工年代について：ローマ帝国の衰退と「新首都」コンスタンティノーブルの発展(シンポジウム「古代ギリシア・ローマ世界における衰退と衰退叙述）」, 第3回古代史研究会春季研究集会, 京都大学・京都市, 2016年3月27日, シンポジウム

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 南雲 泰輔, 後期ローマ帝国時代における世界認識の構造にかんする研究, 17K13561, 若手研究(B), 代表者, 2019年
2. 南雲 泰輔, 後期ローマ帝国時代における世界認識の構造にかんする研究, 17K13561, 若手研究(B), 代表者, 2018年
3. 南雲 泰輔, 後期ローマ帝国時代における世界認識の構造にかんする研究, 17K13561, 若手研究(B), 代表者, 2017年
4. 南雲 泰輔, 古代ギリシア・ローマ史における新しい「衰退論」構築に向けた統合的研究の試み, 26284114, 基盤研究(B), 分担者, 2017年
5. 南雲 泰輔, 古代ギリシア・ローマ史における新しい「衰退論」構築に向けた統合的研究の試み, 26284114H, 基盤研究(B), 分担者, 2016年
6. 南雲 泰輔, 古代ギリシア・ローマ史における新しい「衰退論」構築に向けた統合的研究の試み, 26284114H, 基盤研究(B), 分担者, 2015年

#### VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

なし

黒羽 亮太(くろは りょうた) 博士(文学)

#### I. 書籍等出版物

1. 菱田 哲郎・吉川 真司編, 大脇 潔・高橋 照彦・高 正龍・堀 裕・黒羽 亮太ほか19名, 『古代寺院史の研究』, 思文閣出版, 2019年7月, 全505ページ, 分担執筆, 「古代・中世寺院史研究における東安寺の射程：京都市伏見区の小野廃寺について」, 119-133ページ
2. 市史編集委員会編, 吉江 崇・仁木 宏・黒羽 亮太・天野 忠幸・山田 徹ほか4名, 『新版八尾市史 古代・中世史料編』, 八尾市, 2019年3月, 全633ページ, 分担執筆, 第1部古代史料編 第1章「物部守屋と聖徳太子の争い」／第三章「律令国家の土地支配」／第3部中世テーマ別史料編

第I章「平安時代の荘園形成」／第2節「醍醐寺領五ヶ荘①」, 2-16／23-37／341-355ページ

3. 洋泉社編集部編, 天野 末喜・石坂 泰士・上田 長生・鍛冶 宏介・黒羽 亮太ほか13名, 『天皇陵 (古代史研究の最前線)』, 洋泉社, 2016年1月, 全255ページ, 分担執筆, 「平安時代の天皇陵」, 144-155ページ

## II. 論文

1. 黒羽 亮太, 「平安貴族社会の役と文書の変容」, 『日本史研究』, 679号, 2019年3月, 1-30ページ, 査読有り, 招待有り
2. 黒羽 亮太, 「平安時代の寺院と陵墓の関係史: 律令山陵制の転回過程」, 『日本史研究』, 676号, 2018年12月, 1-21ページ, 査読有り
3. 黒羽 亮太, 「救急料と九世紀賑給財源の再検討」, 『日本史研究』, 645号, 2016年5月, 1-20ページ, 査読有り
4. 黒羽 亮太, 「円融寺と浄妙寺: 撰関期のふたつの墓寺」, 『日本史研究』, 633号, 2015年5月, 1-25ページ, 査読有り

## III. 研究ノート・書評等

1. 黒羽 亮太, (回顧と展望), 「2016年の歴史学界——回顧と展望: 日本古代七」, 『史学雑誌』, 126編5号, 2017年5月, 58-60ページ, 査読無し
2. 黒羽 亮太, (書評), 「榎木謙周著『日本古代の首都と公共性: 賑給、清掃と除災の祭祀・習俗』, 『洛北史学』, 17号, 2015年6月, 93-98ページ, 査読有り

## IV. 講演・口頭発表等

1. 黒羽 亮太, 「宗廟・皇祖・国史: 中日歴史交流」, 日本と東アジア: 歴史の発展と文化の交流, 清華大学・北京市 (中国), 2019年10月20日, 口頭
2. 黒羽 亮太, 「律令山陵祭祀の変容と文書」, 日本史研究会古代史部会, 機関紙会館・京都市, 2019年2月25日, 口頭
3. 黒羽 亮太, 「平安貴族社会の役と文書の変容」, 日本史研究会大会, 佛教大学・京都市, 2018年10月14日, 口頭, 招待有り (報告予稿: 黒羽 亮太, 「古代史部会 平安貴族社会の役と文書の変容 (2018年度日本史研究会大会に向けて: 大会テーマ 地域と日本史学の現在)」, 『日本史研究』, 673号, 2018年9月, 9-11ページ, 査読無し, 招待有り)
4. 黒羽 亮太, 「皇帝文徳の憂鬱」, Issues Regarding Religion and Society in Ancient and Medieval Japan, プリンストン大学・プリンストン (アメリカ), 2018年11月4日, 口頭
5. 黒羽 亮太, 「日本古代の市と市人」, 歴史学研究会日本古代史部会, 東洋大学・文京区, 2017年4月8日, 口頭
6. 黒羽 亮太, 「宇治の古代と中世」, 第39回古代寺院史研究会, 宇治公民館・宇治市, 2016年12月18日, 口頭
7. 黒羽 亮太, 「三島の古代と北摂の山寺」, 第38回古代寺院史研究会, 高槻市立しろあと歴史館・高槻市, 2016年10月30日, 口頭
8. 黒羽 亮太, 「古代寺院の中世的転回」, 日本史研究会古代史部会, 機関紙会館・京都市, 2016年1月11日, 口頭
9. 黒羽 亮太, 「山陵制度から見た承和の転換」, 歴史与文化: 亞洲史中的日本古代, 清華大学・北京市 (中国), 2015年9月20日, 口頭, 招待有り
10. 黒羽 亮太, 「正税雑用と天長・承和の時代像」, 續日本紀研究会例会, アウイーナ大阪・大阪市, 2015年9月4日, 口頭
11. 黒羽 亮太, 「四円寺の立地と役割」, 第33回古代寺院史研究会, 立命館大学・京都市, 2015年7月4日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 黒羽 亮太, 中世寺院社会における本末関係成立過程の研究, 16J00045, 特別研究員奨励費, 代表者, 2018年
2. 黒羽 亮太, 中世寺院社会における本末関係成立過程の研究, 16J00045, 特別研究員奨励費, 代表者, 2017年
3. 黒羽 亮太, 中世寺院社会における本末関係成立過程の研究, 16J00045, 特別研究員奨励費, 代表者, 2016年
4. 黒羽 亮太, 山陵制度にみる律令国家の転回, 14J01264, 特別研究員奨励費, 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## 社会学講座

横田 尚俊 (よこた なおとし) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 田中 重好・黒田 由彦・横田 尚俊・大矢根 淳編, 高橋 誠・平井 太郎・室井 研二・速水 聖子・檜 貢, 『防災と支援: 成熟した市民社会に向けて』, 有斐閣, 2019年3月, 全359ページ, 共編著, 「支援パラダイムの転換」, 204-209ページ,
2. 三浦 典子・横田 尚俊・速水 聖子編, 坂口 桂子・室井 研二・三隅 一人・瀬崎 吉廣・坂本 俊彦ほか8名, 『地域再生の社会学』, 学文社, 2017年3月, 全315ページ, 共編著, 「災害復興と地域再生」 / 「あとがき」, 133-150 / 308-309ページ

### II. 論文

なし

### III. 研究ノート・書評等

1. 横田 尚俊, (序言), 「特集「災害問題の社会学」によせて」, 『社会分析』, 43号, 2016年3月, 1-3ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. 横田 尚俊, 「震災復興まちづくりとポスト復興期における都市コミュニティ」, 第48回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・山口市, 2019年11月2日, 口頭
2. 横田 尚俊, 「復興まちづくりからみた都市コミュニティと市民社会」, 日本都市社会学会第37回大会, 東洋大学・文京区, 2019年9月6日, シンポジウム
3. 横田 尚俊, 「大規模災害と社会的支援」, 山口大学社会学同窓会東京支部総会, 主婦会館プラザエフ・千代田区, 2019年1月26日, 講演
4. 山下 亜紀子・速水 聖子・横田 尚俊, 「地域の連帯に基づく災害支援活動の分析」, 第136回日本社会分析学会研究例会, 福岡県立大学・田川市, 2018年12月22日, 口頭
5. 速水 聖子・横田 尚俊・山下 亜紀子, 「東日本大震災からの遠方避難者における当事者間相互支援活動: ひろしま避難者の会アスチカの事例」, 第136回日本社会分析学会研究例会, 福岡県立大学・田川市, 2018年12月22日, 口頭
6. 横田 尚俊・速水 聖子・山下 亜紀子, 「東日本大震災における遠方避難者・支援者間のネットワーク再編プロセスに関する調査研究に向けて」, 第136回日本社会分析学会研究例会, 福岡県立大学・田川市, 2018年12月22日, 口頭

7. 速水 聖子・横田 尚俊・山下 亜紀子,「遠方避難者における当事者間相互支援のネットワーク化」, 第4回震災問題研究交流会, 早稲田大学・新宿区, 2018年3月23日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 横田 尚俊, 災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究, 18K02029, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 横田 尚俊, 災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究, 18K02029, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. 横田 尚俊, 大規模災害における創発型自治体間支援とそのフィードバック効果に関する研究, 25285153, 基盤研究(B), 代表者, 2016年
4. 横田 尚俊, 大規模災害における創発型自治体間支援とそのフィードバック効果に関する研究, 25285153, 基盤研究(B), 代表者, 2015年
5. 横田 尚俊, 多層的復興モデルに基づく巨大地震災害の国際比較研究, 15H01905, 基盤研究(A), 分担者, 2015年
6. 横田 尚俊, 移動と定住における類縁関係の発動と制度化に関する研究, 24530641, 基盤研究(C), 分担者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

高橋 征仁 (たかはし まさひと) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 片瀬 一男・阿部 晃士・林 雄亮・高橋 征仁,『社会統計学アドバンスト』, ミネルヴァ書房, 2019年12月, 全226ページ, 共著, 第12章「多変量解析を用いた論文を読み解くために」, 164-179ページ
2. 片瀬 一男・阿部 晃士・高橋 征仁,『社会統計学ベイシック』, ミネルヴァ書房, 2015年9月, 全296ページ, 共著, 第9章「複数の平均の差を検定する」/第12章「離散変数間の関連を測定する」/第13章「エラボレーション (1) 疑似相関と交互作用」/第14章「エラボレーション (2) 偏相関係数と付加効果」/第15章「講義のまとめ—調査報告書や論文の読み方・書き方」/コラム⑥/コラム⑪/コラム⑫/コラム⑬/コラム⑭, 129-144 /179-195 /196-215 /216-235 /236-257 /57 /191 /191 /254 /256ページ
3. 関西学院大学災害復興制度研究所・東日本大震災支援全国ネットワーク・福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク編, 河崎 健一郎・日野 行介・江口 智子・林 浩靖・高橋 征仁ほか13名,『原発避難白書』, 人文書院, 2015年9月, 全241ページ, 共編著, 「Ⅲ避難先の状況 山口県」/「Ⅳテーマ別論考3自主避難者の心理的・社会的特性:放射線恐怖症という誤解」, 160 /186-190ページ

### II. 論文

1. 池田 誠・朝位 孝二・村上 ひとみ・高橋 征仁・有川 太郎,「2014年イキケ地震におけるチリ国イキケ市民の避難行動に関する考察」,『土木学会論文集F6 (安全問題)』, 73巻1号, 2017年12月, 92-101ページ, 査読有り
2. 高橋 征仁・神林 博史・グッドウィン ロビン・孫 少晶・ベン-エズラ メナケム,「東日本大震災における喪失体験とレジリエンス:平成23年度宮城県民間賃貸借上住宅入居者健康調査にも



- とづく2次分析」,『東アジア研究』,15号,2017年3月,201-211ページ,査読有り
3. 高橋 征仁,「緊急避難行動における心の脆弱性:東日本大震災における津波避難行動の分析」,『社会分析』,43号,2016年4月,63-82ページ,査読無し,招待有り
  4. Robin Goodwin, Masahito Takahashi, Shaojing Sun, Menachem Ben-Ezra, 'Psychological distress among tsunami refugees from the Great East Japan earthquake', *British Journal of Psychiatry Open*, 1巻1号, 2015年9月, 92-97ページ, 査読有り
  5. 高橋 征仁,「低線量被ばく問題をめぐる母親たちのリスク認知とリスク低減戦略」,『災害復興学研究』,7号,2015年9月,55-78ページ,査読無し,招待有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 高橋 征仁,「放射能汚染をめぐる沈黙と忘却」,第70回日本倫理学会,山口大学・山口市,2019年10月4日,口頭,招待有り
2. 高橋 征仁,「女子上昇婚願望の進化的背景:心と社会の2層理論を目指して」,第88回西日本社会学会,九州大学・福岡市,2018年5月19日,口頭
3. 杉山 賢明・Goodwin Robin・高橋 征仁・草間 太郎・相田 潤・小坂 健,「宮城県仮設住宅入居者の心理的苦痛の推移と相談者の有無との関連について」,第28回日本疫学会学術総会,コラッセふくしま・福島市,2018年2月2日,ポスター(要旨:杉山 賢明・Goodwin Robin・高橋 征仁・草間 太郎・相田 潤・小坂 健,「宮城県仮設住宅入居者の心理的苦痛の推移と相談者の有無との関連について」,『第28回日本疫学会学術総会講演集』会議録(C),139ページ)
4. Kemmyo Sugiyama, Robin Goodwin, Masahito Takahashi, Jun Aida, Ken Osaka, 'Psychological distress amongst refugees in Miyagi, Japan', The 15th European Society for Traumatic Stress Studies, University of Southern Denmark・オーデンセ(デンマーク),2017年7月3日,口頭
5. 有川 太郎・村上 ひとみ・朝位 孝二・高橋 征仁・Ramos Leonel・佐瀬 浩・富田 孝史・三浦 房紀,「2015年イジャベル地震におけるチリ国の津波避難行動の開始特性について」,第55回土木計画学研究発表会(春大会),愛媛大学・松山市,2017年6月10日,口頭(要旨:有川 太郎・村上 ひとみ・朝位 孝二・高橋 征仁・Ramos Leonel・佐瀬 浩・富田 孝史・三浦房紀,「2015年イジャベル地震におけるチリ国の津波避難行動の開始特性について」,『第55回土木計画学研究発表会・講演集』25-01,1-4ページ)
6. Masahito Takahashi, 'How to Survive a Tsunami: An Individualistic Maxim in Japanese Collectivism', The 3rd Forum of International Sociological Association, Universität Wien・ウィーン(オーストリア),2016年6月13日,口頭
7. Taro Arikawa, Hitomi Murakami, Koji Asai, Masahito Takahashi, Leonel Ramos Santibáñez, Koichi Sase, Takashi Tomita, Fusanori Miura, 'A Comparative study on evacuation response and city planning against tsunami between Chile and Japan', SATREPS Chile Workshop in Iquique, チリ公共事業者・タラパカ事務所・イキケ(チリ),2016年3月1日,口頭
8. 高橋 征仁・堀江 重郎・陸 彦,「唾液中テストストロン濃度の変化と道徳性の関連」,法と人間科学グランドシンポジウム,北海道大学・札幌市,2016年2月14日,ポスター
9. 高橋 征仁,「青年期への進化論的アプローチ:ゼロサムゲームから割れ鍋ゲームへ」,新学術領域「法と人間科学」拡大総括班会議,北海道大学東京オフィス・千代田区,2015年10月23日,口頭
10. 高橋 征仁,「関東汚染地域の住民意識調査:母親たちの覚悟と勇気・疲弊と諦め」,原発事故子ども・被災者支援法3周年シンポジウム,上智大学・千代田区,2015年6月21日,口頭,招待有り
11. Masahito Takahashi, 'Psychological Vulnerabilities to Tsunami Disaster', The 1st UNUD/YU Collaboration Seminar on Application of Satellite Remotesensing Technologies for Disaster Management and Environment, Udayana University・デンパサル(インドネシア),2015年5月25日,口頭,招待有り
12. 高橋 征仁,「災害文化と心の脆弱性」,第88回日本社会学会大会,早稲田大学戸山キャンパス・新宿区,2015年9月20日,口頭

## V. 受賞

1. 地球規模課題対応国際科学技術協力SATREPSチリプロジェクト「津波に強い地域づくり技術の向上に関する研究」, 富田 孝史・高橋 智幸・馬場 俊孝・三浦 房紀・高橋 征仁ほか43名, 第11回 JICA理事長表彰, 独立行政法人国際協力機構, 2015年10月

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 高橋 征仁, 被災者はなぜ罪悪感を抱くのか? : 避難の困難さと社会的承認に関する実証的研究, 18K01963, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 高橋 征仁, 古降雨と社会変遷を考慮した千年スケールの土砂災害リスク評価の高精度化, 17K18954, 挑戦的研究(萌芽), 分担者, 2019年
3. 高橋 征仁, 被災者はなぜ罪悪感を抱くのか? : 避難の困難さと社会的承認に関する実証的研究, 18K01963, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
4. 高橋 征仁, 古降雨と社会変遷を考慮した千年スケールの土砂災害リスク評価の高精度化, 17K18954, 挑戦的研究(萌芽), 分担者, 2018年
5. 高橋 征仁, 緊急避難行動の進化心理学:台風がくると田んぼを見に出かけたくなるのはなぜか?, 16K12837, 挑戦的萌芽研究, 代表者, 2017年
6. 高橋 征仁, 古降雨と社会変遷を考慮した千年スケールの土砂災害リスク評価の高精度化, 17K18954, 挑戦的研究(萌芽), 分担者, 2017年
7. 高橋 征仁, 緊急避難行動の進化心理学:台風がくると田んぼを見に出かけたくなるのはなぜか?, 16K12837, 挑戦的萌芽研究, 代表者, 2016年
8. 高橋 征仁, 若者の政治的無関心とシルバーポリティクスに関する社会学的研究, 24530630, 基盤研究(C), 代表者, 2015年
9. 高橋 征仁, 青年期における法意識の揺らぎに関する進化心理学的アプローチ, 26101702H, 新学術領域研究, 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 高橋 征仁, 「原発避難は終わっていない:沈黙する避難者たち」, 「避難の権利」を求める全国避難者の会 2019年年会, 山口大学・山口市, 2019年5月11日, 公開講演
2. 高橋 征仁, 「なぜ、避難者たちは沈黙するのか? : 避難者罪悪感と避難者バッシング」, 山口県避難移住者の会「原発避難は終わらない: 私たちは今」, 山口県社会福祉会館・山口市, 2019年2月17日, 公開講演
3. 高橋 征仁, 「なぜ災害から逃げ遅れるのか? : ヒトの心に潜む脆弱性」, 311当事者ネットワークセミナー, 愛媛大学・松山市, 2018年8月3日, 公開講演
4. 高橋 征仁, 「なぜ避難者は罪悪感を抱くのか?」, 第8回災害復興市民塾, 大阪ボランティア協会・大阪市, 2017年3月14日, 公開講演
5. 高橋 征仁, 「原発避難をめぐる多様性と課題: 分断と疲弊・忘却を乗り越えるために」, 岡山県内における東日本大震災避難者支援の現状に関する情報交換会, 岡山県きらめきプラザ・岡山市, 2016年3月10日, 公開講演
6. 高橋 征仁, 「災害から逃げ遅れるのはなぜか?」, 3.11被災地に思いをよせる宇部市民の集い, ヒストリア宇部・宇部市, 2016年3月6日, 公開講演
7. 高橋 征仁, 「心のデザインを知り、活用する: 進化からヒトの心を考える」, 第4回医療機器産業参入セミナー (山口県産業技術センター), 山口グランドホテル・山口市, 2015年11月12日, 公開講演
8. 高橋 征仁, 「関東ホットスポットにおける住民意識 調査からみた現状と課題: 地域住民の分断と疲弊・忘却を乗り越えるために」, 人びとの気持ちと選択@関東ホットスポット, 常総生協本部・守谷市, 2015年7月19日, 公開講演
9. 高橋 征仁, 「日本版リスコミにおける歪んだ啓蒙主義: 勇気と覚悟を持ち続けるために」, 人びとの気持ちと選択@関東ホットスポット, 常総生活協同組合・守谷市, 2015年7月19日, 公開講演
10. 高橋 征仁, 「東日本大震災避難者の現状」, おいでませ山口♪定住支援ネットワーク結成総会, 小

速水 聖子 (はやみ せいこ) 博士 (社会学)

I. 書籍等出版物

1. 田中 重好・黒田 由彦・横田 尚俊・大矢根 淳編, 高橋 誠・平井 太郎・室井 研二・速水 聖子・檜 貢, 『防災と支援: 成熟した市民社会に向けて』, 有斐閣, 2019年3月, 全359ページ, 分担執筆, 「第8章第5節」 / 「第9章第1・5節」, 270-279 / 280-312ページ
2. 伊藤 守・小泉 秀樹・三本松 政之・似田貝 香門・橋本 和孝ほか3名編, 青木 秀男・青田 良介・秋田 典子・朝倉 暁生・速水 聖子ほか266名, 『コミュニティ事典』, 春風社, 2017年6月, 全1143ページ, 分担執筆, 「リージョナリズムとコミュニティ」 / 「少子・高齢化と都市コミュニティの変容」 / 「子どもの地域環境とコミュニティ」, 454-455 / 462-463 / 503-504ページ
3. 三浦 典子・横田 尚俊・速水 聖子編, 坂口 桂子・室井 研二・三隅 一人・瀬崎 吉廣・坂本 俊彦ほか8名, 『地域再生の社会学』, 学文社, 2017年3月, 全315ページ, 共編著, 「市民参画と市民活動の時代における地域再生への展望」, 98-115ページ

II. 論文

1. 速水 聖子, 「避難をめぐる当事者間相互支援と共生のためのコミュニティ: ひろしま避難者の会「アスチカ」の事例」, 『やまぐち地域社会研究』, 17巻, 2020年3月, 15-30ページ, 査読有り
2. 速水 聖子・横田 尚俊・山下 亜紀子, 「遠方避難者における当事者間相互支援のネットワーク化」, 『第4回震災問題研究交流会研究報告書』, 2018年10月, 105-110ページ, 査読無し
3. 速水 聖子, 「地域の子育て支援における学童保育の役割と可能性: 学童保育利用者保護者アンケートの分析より」, 『やまぐち地域社会研究』, 15号, 2018年3月, 29-44ページ, 査読有り
4. 速水 聖子, 「被災地・福島をめぐる社会的分断と共生についての考察: 現地での支援 / 遠くからの支援」, 『山口大学文学会誌』, 67巻, 2017年3月, 1-22ページ, 査読無し
5. 福迫 昌之・速水 聖子, 「福島県浜通り地域における復興の課題と共生への取り組み: 「分断」「あつれき」から「連携」「共生」へ」, 『東日本国際大学経済経営学部研究紀要』, 22巻1号, 2017年3月, 1-24ページ, 査読有り
6. 福迫 昌之・速水 聖子, 「福島県浜通り地域における「復興まちづくり」の課題」, 『ほくとう総研機関紙NETT』, 93号, 2016年7月, 49-54ページ, 査読無し
7. 速水 聖子, 「学童保育における制度化と協働のゆくえ: 担い手の多様化をめぐって」, 『西日本社会学会年報』, 14号, 2016年5月, 21-33ページ, 査読有り

III. 研究ノート・書評等

1. 速水 聖子, (書評), 「石田光規編『郊外社会の分断と再編-つくられたまち・多摩ニュータウンのその後』(晃洋書房 2018年)」, 『地域社会学会年報』, 31号, 2019年5月, 88-89ページ, 査読無し
2. 速水 聖子, (書評), 「金子勇著『日本の子育て共同参画社会: 少子社会と児童虐待』(ミネルヴァ書房 2016年)」, 『西日本社会学会年報』, 16号, 2018年3月, 125-126ページ, 査読無し

IV. 講演・口頭発表等

1. 速水 聖子・横田 尚俊・山下 亜紀子, 「東日本大震災からの遠方避難者における当事者間相互支援活動: ひろしま避難者の会アスチカの事例」, 第136回日本社会分析学会研究例会, 福岡県立大学・田川市, 2018年12月22日, 口頭
2. 速水 聖子・横田 尚俊・山下 亜紀子, 「遠方避難者における当事者間相互支援のネットワーク化: 西日本地域の事例を通して」, 第4回震災問題研究交流会, 早稲田大学・新宿区, 2018年3月23日, 口頭
3. 速水 聖子, 「「子育ての社会化」をめぐる学童保育についての考察: 地域における「協働」の可能

- 性」, 第90回日本社会学会大会, 東京大学・文京区, 2017年11月4日, 口頭
4. 速水 聖子, 「遠隔地における広域避難者の受け入れと支援の考察についての私見」, 第43回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・山口市, 2017年7月8日, 口頭
  5. 速水 聖子, 「地域の子育て支援における学童保育の役割と可能性:保護者アンケートの分析より」, 第41回地域社会学会大会, 桜美林大学・町田市, 2016年5月14日, 口頭
  6. 速水 聖子, 「保護者は学童保育に何を求めているか:福岡県春日市における保護者調査速報」, 第40回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・山口市, 2016年3月5日, 口頭
  7. 速水 聖子, 「学童保育における担い手の多様性:制度化と協働のゆくえ」, 第40回地域社会学会大会, 東北学院大学・仙台市, 2015年5月9日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 速水 聖子, 海外日本人社会における情報環境の変容とコミュニティの動態に関する比較社会学的研究, 17H04561, 基盤研究(B), 分担者, 2019年
2. 速水 聖子, 過疎地域と地方都市間の関係分析による人口減少社会モデルの生活構造論的構築, 19H01562, 基盤研究(B), 分担者, 2019年
3. 速水 聖子, 災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究, 18K02029, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
4. 速水 聖子, 災害復興期における広域避難者・支援者間のネットワーク再編に関する研究, 18K02029, 基盤研究(C), 分担者, 2018年
5. 速水 聖子, 海外日本人社会における情報環境の変容とコミュニティの動態に関する比較社会学的研究, 17H04561, 基盤研究(B), 分担者, 2018年
6. 速水 聖子, 海外日本人社会における情報環境の変容とコミュニティの動態に関する比較社会学的研究, 17H04561, 基盤研究(B), 分担者, 2017年
7. 速水 聖子, 学童保育における社会資源の多様化と協働にみる子育て支援コミュニティの可能性, 26380681, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
8. 速水 聖子, 学童保育における社会資源の多様化と協働にみる子育て支援コミュニティの可能性, 26380681, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

谷部 真吾 (やべ しんご) 博士 (社会学)

### I. 書籍等出版物

1. 和崎 春日編, 有末 賢, 鈴木 裕之, 山田 慎也, 藤野 陽平, 谷部 真吾ほか36名, 『響き合うフィールド:躍動する世界』, 刀水書房, 2020年3月, 全779ページ, 分担執筆, 「高度経済成長期における祭礼の変容:富山県高岡市の伏木曳山祭を事例として」, 23-40ページ
2. 陳 尚勝編, 楊 善民, 王 佃利, 李 文, 陶 冶, 谷部 真吾ほか30名, 『東亜命運共同体』, 山東大学出版社, 2019年1月, 全353ページ, 分担執筆, 「論日本祭礼中の東亜文化影響」, 211-218ページ
3. 阿南 透編, 藤本 武, 小馬 徹, 野澤 豊一, 島添 貴美子, 谷部 真吾ほか15名, 『富山の祭り』, 桂書房, 2018年3月, 全233ページ, 分担執筆, 「伏木曳山祭:熱狂と信仰と」, 79-94ページ

### II. 論文

1. 陶 治・谷部 真吾, 「宗教文化の可能性と東アジア人類学の課題: 韓国における『無教会主義』の活動を中心として」, 『東アジア研究』, 17号, 2019年3月, 125-135ページ, 査読無し, 招待有り
2. 谷部 真吾, 「風流にみる『異国』」, 『やまぐち地域社会研究』, 14号, 2017年3月, 223-231ページ, 査読有り
3. 谷部 真吾, 「祭りと縁起: 近世期の三社祭における神輿渡御を事例として」, 『遠祭』, 8号, 2016年7月, 1-6ページ, 査読無し, 招待有り

### III. 研究ノート・書評等

1. 谷部 真吾, (報告書), 「小倉祇園太鼓の現況」, 『小倉祇園太鼓』, 2018年10月, 81-125ページ, 査読無し, 招待有り
2. 谷部 真吾, (コラム), 「明日のお寺を考える 民俗学からのアプローチ」, 『月刊 仏事』, 202号, 2017年7月, 68-75ページ, 査読無し, 招待有り
3. 谷部 真吾, (報告書), 「第5章 藤原・磯鷄地区」, 『東日本大震災 宮古市の記録』第2巻(下), 2017年3月, 258-272ページ, 査読無し, 招待有り
4. 谷部 真吾, (コラム), 「鬼踊りの意味をめぐって」, 『平成28年度版 見付天神裸祭ガイドブック』, 2016年8月, 25-25ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. YABE Shingo, ‘Current Situation of Japanese Festivals’, The Change of World Pattern and the Construction of a Community with Shared Future in East Asia, 山東大学・青島市(中国), 2019年3月22日, シンポジウム, 招待有り
2. 谷部 真吾, 『『競技化』概念の可能性: 森の祭りと伏木曳山祭を事例として』, 日本民俗学会第70回年会, 駒澤大学・世田谷区, 2018年10月14日, 口頭
3. YABE Shingo, “‘New development of East Asia’ viewed from the perspective of Japanese folklore”, 山口大学・山東大学による重点連携プロジェクトシンポジウム「アジアの新しい発展: 社会・経済・技術」, 山口大学・山口市, 2018年3月8日, 口頭, 招待有り
4. 谷部 真吾, 「批判されるけんか祭り: 高度経済成長期の伏木曳山(高岡市)を事例として」, 日本民俗学会第69回年会, 佛教大学・京都市, 2017年10月15日, 口頭
5. 谷部 真吾, 「日本の祭礼に見る東アジアの影響」, Shandon Forum 2016, East Asia Community of Common Destiny, 山東大学・済南市(中国), 2016年10月20日, 口頭, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 谷部 真吾, 祭礼の脱「暴力」化に関する民俗学的研究, 16K03223, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 谷部 真吾, 祭礼の脱「暴力」化に関する民俗学的研究, 16K03223, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. 谷部 真吾, 祭礼の脱「暴力」化に関する民俗学的研究, 16K03223, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
4. 谷部 真吾, 祭礼の脱「暴力」化に関する民俗学的研究, 16K03223, 基盤研究(C), 代表者, 2016年

### VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

なし

小林 宏至 (こばやし ひろし) 博士 (社会人類学)

## I. 書籍等出版物

1. 吉野 晃監修, 岩野 邦康・田所 聖志・稲澤 努・小林 宏至編, 中村 知子・二文字屋 脩・八田 靖史・福士 由紀・中野 麻衣子ほか7名, 『ダメになる人類学』, 北樹出版, 2020年3月, 全240ページ, 共編著, はじめに／第2部Chapter 4／第5部Chapter 4／第8部Chapter 3／第9部Chapter 2／おわりに, ii-v／36-39／102-105／162-165／176-179／202-205ページ
2. 飯島 典子・河合 洋尚・小林 宏至, 『客家：歴史・文化・イメージ = Hakka』, 現代書館, 2019年5月, 全220ページ+図版7ページ, 共著, 4章／8章／11章／12章／13章／16章／19章／26章／コラム②, 30-33／48-56／72-94／106-112／123-129／146-155／174-180ページ
3. 宗教情報リサーチセンター編, 井上 順孝責任編集, 高橋 典史・藤井 修平・虫賀 幹華・隈元 正樹・小林 宏至ほか6名, 『海外における日本宗教の展開：21世紀の状況を中心に』, 公益財団法人国際宗教研究所 宗教情報リサーチセンター, 2019年5月, 全234ページ, 分担執筆, 「大陸中国における日本の新宗教：中国の学術機関と創価学会の関係をを中心に」, 137-160ページ
4. 杉本 良男・松尾 瑞穂編, 望月 哲男・小林 宏至・井田 克征・高橋 沙奈美・韓 敏ほか5名, 『聖地のポリティクス：ユーラシア地域大国の比較から』, 風響社, 2019年3月, 全350ページ, 分担執筆, 「歴史のなかの聖地と記憶のなかの〈聖地〉：福建客家社会における寧化石壁、李氏大宗祠、保生大帝廟」, 51-86ページ
5. 西澤 治彦・河合 洋尚編, 末成 道男・長沼 さやか・阿部 朋恒・奈良 雅史・小林 宏至ほか19名, 『フィールドワーク：中国という現場、人類学という実践』, 風響社, 2017年6月, 全550ページ, その他, 「座談会 現代中国におけるフィールドワークの実践」, 209-223ページ
6. ホッピー文化研究会編, 碧海 寿広・藤野 陽平・濱雄 亮・高橋 典史・小林 宏至ほか1名, 『ホッピー文化論』, ハーベスト社, 2016年9月, 全178ページ, 分担執筆, 「VI 孤高の「酒」ホッピー あるいはホッピーの文化人類学」, 143-166ページ
7. 瀬川 昌久・川口 幸大編, 轟 莉莉・秦 兆雄・小林 宏至・長沼 さやか・稲澤 努ほか1名, 『〈宗族〉と中国社会：その変貌と人類学的研究の現在』, 風響社, 2016年5月, 全310ページ, 共著, 第4章「社会的住所としての宗族：福建省客家社会における人物呼称の事例から」, 137-171ページ
8. 川口 幸大・稲澤 努編, 兼城 糸絵・長沼 さやか・小林 宏至・櫻田 涼子・奈倉 京子ほか3名, 『僑郷：華僑のふるさとをめぐる表象と実像 (東北アジア研究専書：中国の底流シリーズ)』, 行路社, 2016年3月, 全314ページ, 共著, 「僑郷からの災因論：二一世紀における「古典的」な風水事例より」, 143-171ページ
9. 渡邊 直樹編, 鈴木 正崇・五十嵐 太郎・岡本 亮輔・小林 宏至・天田 顕徳ほか45名, 『宗教と現代がわかる本2016』, 平凡社, 2016年3月, 全251ページ, 分担執筆, 「話題の用語解説・新語解説」, 246-251ページ
10. 夏 远鸣・河合 洋尚編, 小林 宏至・田中 孝枝・邱 立漢・星野 麗子・陳 世松ほか5名, 『全球化背景下客家文化景观的创造：环南中国海的个案』, 广州暨南大学出版社, 2015年7月, 全212ページ, 分担執筆, 「客家地区社会知识的生产和消费」, 39-48ページ

## II. 論文

1. 小林 宏至, 「客家地域における閩南文化：分水嶺を越境する神様の「里帰り」」, 『やまぐち地域社会研究』, 14号, 2017年3月, 209-222ページ, 査読有り, 招待有り

## III. 研究ノート・書評等

1. 小林 宏至, (書評), 「福浦厚子著『都市の寺廟：シンガポールにおける神聖空間の人類学』」, 『宗教と社会』, 25号, 2019年6月, 179-184ページ, 査読無し, 招待有り

## IV. 講演・口頭発表等

1. 小林 宏至, 「東アジア社会における現在の「青色」の変遷をめぐって」, 东亚文化交流艺术”国

- 际学术研讨会，浙江工商大学东亚研究院・杭州市（中国），2019年12月7日，セミナー，招待有り
2. 小林 宏至，「茂木計一郎と客家研究」，百年往返，国立交通大学・新竹市（台湾），2019年10月5日，口頭，招待有り
  3. 小林 宏至，「客家社会と親族研究」，中日人類学学術シンポジウム，中央民族大学・北京市（中国），2019年9月13日，シンポジウム，招待有り
  4. 小林 宏至，「原生态建筑物和亲族组织的相互关系以中国福建客家的“土楼”为例」，国际学术讲座：东亚的社会与文化，山東大学・済南市（中国），2019年3月25日，講義等，招待有り
  5. 小林 宏至，‘Strategic Ambiguity and Hakka Ethnicity in East Asian Societies’，Symposium on the Change of World Pattern and the Construction of a Community with Shared future in East Asia，山東大学・青島市（中国），2019年3月22日，シンポジウム，招待有り
  6. 小林 宏至，「客家文化としての土楼建築、閩南文化としての保生大帝」，国際シンポジウム「客家エスニシティとグローバル現象：華僑華人の拡がり」と現在」，国立民族学博物館・吹田市，2018年12月16日，公開講演，招待有り
  7. 小林 宏至，「文化人類学からみる日本文化」，貴州大学2018年第63期文科講壇，貴州大学・貴陽市（中国），2018年11月1日，公開講演，招待有り
  8. 小林 宏至，「客家族群与含糊的民族主义」，文化 聚落 共有財：环境变迁下之永续发展 国际学术研讨会，国立台北大学・新竹市（台湾），2018年8月31日，口頭，招待有り
  9. 小林 宏至，「消費社会に疲れた若者たちが消費するもの」，日本文化人類学会第52回研究大会，弘前大学・弘前市，2018年6月2日，口頭
  10. 小林 宏至，「作为历史的文物与作为记忆的文物：以中国福建省永定县的客家土楼为例」，文化 聚落 共有財：环境变迁下之永续发展，国立台北大学・新竹市（台湾），2018年2月5日，口頭
  11. 小林 宏至，「ローカルな観光資源とグローバルなメディア表象：中国客家社会にける福建土楼を事例として」，メディアと社会のエスノグラフィ：メディア人類学の基盤研究，北海道大学・札幌市，2017年7月21日，セミナー，招待有り
  12. 小林 宏至，「客家社会における土楼と親族組織をめぐる社会人類学的研究」，日本文化人類学会 関東地区研究懇談会2016年度修士論文・博士論文発表会，東京大学・目黒区，2017年3月18日，口頭
  13. 小林 宏至，「宗族が造り出す家屋・家屋が創り出す宗族」，2016年度 山口中国学会大会，山口大学・山口市，2016年12月17日，口頭
  14. 小林 宏至，「呼称と社会集団：中国福建省客家社会を事例として」，第42回山口地域社会学会・日本村落研究学会九州地区合同研究例会，山口大学・山口市，2016年11月12日，口頭
  15. 小林 宏至，「行政主導の「聖地」づくり：客家「聖地」からみる文化表象のポリティクス」，日本文化人類学会第50回年研究大会，南山大学・名古屋市，2016年5月29日，口頭
  16. 小林宏至，‘Rethinking Zongzu Segmentation Through Architecture of Kejia Tulou’，The 8th Annual CUHK Anthropology Postgraduate Student Forum “Transforming Asian Anthropology: Dialogues and Imaginations”，CUHK（香港中文大学）・香港（中国），2016年1月22日，口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 小林 宏至，土楼建築の建造過程と親族組織の再編に関する社会人類学的研究，16H07005，研究活動スタート支援，代表者，2017年
2. 小林 宏至，土楼建築の建造過程と親族組織の再編に関する社会人類学的研究，16H07005，研究活動スタート支援，代表者，2016年

## VII. その他（特記すべき作品，活動等）

なし

山口 睦 (やまぐち むつみ) 博士 (学術)

#### I. 書籍等出版物

1. 高倉 浩樹・山口 睦編, 小谷 竜介・今石 みぎわ・久保田 裕道・稲澤 努・呉屋 淳子ほか9名, 『震災後の地域文化と被災者の民俗誌: フィールド災害人文学の構築』, 新泉社, 2018年1月, 全288ページ, 共編著, 「被災地にみる手仕事ビジネスと新たな社会関係: 宮城県を事例として」, 214-234ページ
2. 高山 陽子編, 岡本 亮輔・稲澤 努・藤野 陽平・大塚 直樹・山口 睦ほか5名, 『多文化時代の観光学: フィールドワークからのアプローチ』, ミネルヴァ書店, 2017年6月, 全252ページ, 分担執筆, 「ミリタリー・ツーリズム: 零戦の展示から学ぶもの」, 214-234ページ
3. 岸上 伸啓編, 岩田 有史・田島 知之・立川 陽仁・井上 敏昭・山口 睦ほか7名, 『贈与論再考: 人間はなぜ他者に与えるのか』, 臨川書店, 2016年8月, 全324ページ, 分担執筆, 「災害支援と贈与: 20世紀前半の婦人会活動を事例として」, 261-285ページ

#### II. 論文

1. 山口 睦, 「復興支援と手作り商品の物語: 東日本大震災被災地を事例として」, 『地域研究』, 19巻1号, 2019年5月, 1-18ページ, 査読有り
2. 山口 睦, 「手作り復興商品にみる被災地性の演出と脱却: 東日本大震災を中心とした考察」, 『観光学評論』, 6巻2号, 2018年9月, 191-205ページ, 査読有り, 招待有り
3. 山口 睦, 「災害支援としての慰問袋: 20世紀前半の新聞記事を資料として」, 『やまぐち地域社会研究』, 15号, 2018年3月, 45-64ページ, 査読有り
4. 山口 睦, 「県境をこえたもの、こえなかったもの: 宮城県丸森町筆甫地区における放射線対策」, 『東北文化研究室紀要』, 57号, 2016年3月, 23-39ページ, 査読無し

#### III. 研究ノート・書評等

1. 山口 睦, (書評), 「谷口貢・板橋春夫編『年中行事の民俗学』」, 『文化人類学』, 83巻2号, 2018年9月, 302-305ページ, 査読無し
2. 山口 睦, (書評), 「山崎吾郎著『臓器移植の人類学: 身体の贈与と情動の経済』」, 『文化人類学』, 81巻2号, 2016年9月, 362-365ページ, 査読無し

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 山口 睦, 「贈与と協働の献立: 近世・近代日本の饗応儀礼食の記録分析」, 『日本文化人類学会第53回研究大会』, 東北大学・仙台市, 2019年6月1日, 口頭
2. 山口 睦, 「おみやげにみる被災地性の演出と脱却: 東日本大震災後の宮城県を事例として」, 『観光学術学会第5回研究集会』, 奈良女子大学・奈良市, 2018年2月18日, 口頭, 招待有り
3. 山口 睦, 「震災復興とコミュニティビジネス: 東日本大震災後の宮城県を事例として」, 『第44回山口地域社会学会研究例会』, 山口大学・山口市, 2017年11月18日, 口頭
4. 山口 睦, 「零戦展示にみる戦争観光の現代的変容」, 『日本文化人類学会第51回研究大会』, 神戸大学・神戸市, 2017年5月27日, 口頭
5. 山口 睦, 「復興支援とみやげもの: 東日本大震災被災地における手作り商品」, 『2016年度JCAS次世代ワークショップ 伝統文化とグローバルな観光現象のせめぎあい』, 京都大学・京都市, 2017年2月11日, 口頭
6. 山口 睦, 「災害支援と贈与: 20世紀前半の婦人会活動を事例として」, 『日本文化人類学会第50回研究大会』, 南山大学・名古屋市, 2016年5月28日, 口頭
7. YAMAGUCHI Mutsumi, 'Zero Fighter Plane Exhibits in Japan', Inter Congress, IUAES, ホテル・パレス・ドゥブロンニク・ドゥブロンニク (クロアチア), 2016年5月7日, 口頭

#### V. 受賞

なし



## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 山口 睦, 活性化する贈与経済についての人類学的研究, 17K03271, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 山口 睦, 「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究, 19H01295, 基盤研究(B), 分担者, 2019年
3. 山口 睦, 活性化する贈与経済についての人類学的研究, 17K03721, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
4. 山口 睦, 東アジアの戦争観光とナショナリズム, 15H03140, 基盤研究(B), 分担者, 2018年
5. 山口 睦, 活性化する贈与経済についての人類学的研究, 17K03721, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
6. 山口 睦, 東アジアの戦争観光とナショナリズム, 15H03140, 基盤研究(B), 分担者, 2017年
7. 山口 睦, 災害支援と贈与についての人類学的研究, 26770298, 若手研究(B), 代表者, 2016年
8. 山口 睦, 東アジアの戦争観光とナショナリズム, 15H03140, 基盤研究(B), 分担者, 2016年
9. 山口 睦, 災害支援と贈与についての人類学的研究, 26770298, 若手研究(B), 代表者, 2015年
10. 山口 睦, 東アジアの戦争観光とナショナリズム, 15H03140, 基盤研究(B), 分担者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

桑畑 洋一郎 (くわはた よういちろう) 博士 (比較社会文化)

### I. 書籍等出版物

1. 山本 努編, 山下 亜紀子・吉武 由彩・桑畑 洋一郎, 『新版現代の社会学的解説: イントロダクション社会学』, 学文社, 2016年8月, 全200ページ, 分担執筆, 第7章「社会問題・社会病理」/第8章「付論(2) 社会調査の名著: 質的社会調査の成果」, 137-155 / 186-191ページ

### II. 論文

1. 桑畑 洋一郎, 「沖縄におけるハンセン病療養所退所者の諸実践」, 『解放社会学研究』, 33号, 2020年3月, 95-119ページ, 査読有り, 招待有り
2. 桑畑 洋一郎, 「HTLV-1関連疾患当事者団体「スマイルリボン」による当事者運動の研究: 対内的運動と対外的運動に注目して」, 『社会分析』, 47号, 2020年3月, 95-110ページ, 査読有り
3. 桑畑 洋一郎, 「近代日本における“母乳育児”概念の分析」, 『異文化研究』, 14号, 2020年3月, 36-49ページ, 査読無し
4. 桑畑 洋一郎, 「天理教里親における信仰との距離」, 『やまぐち地域社会研究』, 17号, 2020年3月, 31-42ページ, 査読有り
5. 桑畑 洋一郎, 「HTLV-1関連疾患を対象とした粉ミルク補助事業の成立過程に関する研究」, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 19-47ページ, 査読無し
6. 桑畑 洋一郎, 「天理教里親活動に関する予備的考察」, 『異文化研究』, 13巻, 2019年3月, 71-83ページ, 査読無し
7. 桑畑 洋一郎, 「ネットはどのように燃えるのか: インターネット掲示板の書き込みに対する計量テキスト分析より」, 『山口大学文学会志』, 69巻, 2019年3月, 1-21ページ, 査読無し
8. 桑畑 洋一郎, 「保育者養成と多様性: 保育者養成テキストの内容分析とHTLV-1関連疾患当事者のインタビュー調査から」, 『子ども未来学研究』, 12号, 2018年2月, 27-37ページ, 査読無し
9. 桑畑 洋一郎, 「新任保育士にとっての困難に関する一考察: 新任保育所保育士調査への計量テキスト分析に基づいて」, 『梅光学院大学論集』, 51号, 2018年1月, 35-46ページ, 査読有り
10. 桑畑 洋一郎, 「病の当事者の共同性/病の当事者と共同性: HTLV-1関連疾患当事者団体の運動に注目して」, 『社会分析』, 44号, 2017年4月, 13-30ページ, 査読有り, 招待有り

11. 桑畑 洋一郎, 「病に対する公的対策はいかに決定されるのか: HTLV-1対策推進協議会議事録への計量テキスト分析より」, 『梅光学院大学論集』, 50号, 2017年1月, 48-70ページ, 査読有り
12. 桑畑 洋一郎, 「保育園との協働による保育者養成に向けて: 2016年度下関市保育者養成連絡協議会における模擬保育と模擬面接の試み」, 『子ども未来学研究』, 11号, 2016年12月, 79-82ページ, 査読無し
13. 桑畑 洋一郎, 「子育て支援施設利用者のニーズに関する経年比較分析: 下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」利用者調査から」, 『子ども未来学研究』, 11号, 2016年12月, 3-29ページ, 査読無し
14. 桑畑 洋一郎, 「HTLV-1への公的疾病対策の論点分析(3): HTLV-1対策推進協議会における議論を元に」, 『梅光学院大学論集』, 49号, 2016年1月, 43-52ページ, 査読有り
15. 山田 洋平・桑畑 洋一郎, 「大学生を対象とした授業満足度の高い授業に影響を与える要因の検討: 授業評価アンケートを用いて」, 『梅光学院大学論集』, 49号, 2016年1月, 72-87ページ, 査読有り
16. 桑畑 洋一郎, 「下関における子育て支援ニーズの実態調査: ふくふくこども館調査の経年比較を通して」, 『子ども未来学研究』, 10号, 2015年12月, 3-22ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

1. 桑畑 洋一郎, (書評), 「有菌真代著『ハンセン病療養所を生きる』」, 『社会学評論』, 69巻1号, 2018年6月, 146-148ページ, 査読無し, 招待有り
2. 桑畑 洋一郎, (書評), 「廣末登著『組長の娘: 中川茂代の人生 更生した女性が語る自身のライフヒストリー』」, 『現代の社会病理』, 31号, 2016年9月, 155-156ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. 桑畑 洋一郎, 「『遺伝学の知識と病いの語り』(合評会資料)」, 『遺伝学の知識と病いの語り』合評会, 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス・千代田区, 2019年12月28日, 口頭, 招待有り
2. 桑畑 洋一郎, 「“地域課題”の発生過程に関する一考察」, 第138回日本社会分析学会例会, 鹿児島女子短期大学・鹿児島市, 2019年12月15日, 口頭
3. 桑畑 洋一郎, 「難治性疾患当事者団体にとって臨床試験とは何か: HTLV-1関連疾患当事者へのインタビュー調査より」, 第92回日本社会学会大会, 東京女子大学・杉並区, 2019年10月5日, 口頭
4. 桑畑 洋一郎, 「欲求喚起の対象としての子ども: 幼児雑誌の分析から」, 日本社会病理学会第35回大会, 流通経済大学・松戸市, 2019年9月29日, 口頭
5. 桑畑 洋一郎, 「ターゲットとなる子ども: 幼児雑誌の付録の分析より」, 第137回日本社会分析学会例会, 熊本大学・熊本市, 2019年7月28日, 口頭
6. 桑畑 洋一郎, 「天理教里親における信仰との距離」, 第45回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・山口市, 2019年7月6日, 口頭
7. 桑畑 洋一郎, 「天理教と里親: 天理教里親へのインタビュー調査に基づいて」, 第17回福祉社会学会大会, 明治学院大学・港区, 2019年6月15日, 口頭
8. 桑畑 洋一郎, 「天理教と里親: 天理教里親へのインタビュー調査をもとに」, 第77回西日本社会学会大会, 佐賀大学・佐賀市, 2019年5月26日, 口頭
9. 桑畑 洋一郎, 「当事者運動としての臨床試験: HTLV-1関連疾患当事者へのインタビュー調査より」, 第30回日本保健医療社会学会大会, 東京慈恵会医科大学・調布市, 2019年5月18日, 口頭
10. 桑畑 洋一郎, 「当事者と臨床試験: HTLV-1関連疾患当事者への調査を元に」, 第136回日本社会分析学会例会, 福岡県立大学・田川市, 2018年12月23日, 口頭
11. 桑畑 洋一郎, 「沖縄におけるハンセン病療養所退所者の諸実践」, 第34回日本解放社会学会大会, 松山大学・松山市, 2018年9月6日, 口頭, 招待有り
12. 桑畑 洋一郎, 「施設内暴力の発生メカニズムに関する一考察」, 第76回西日本社会学会大会, 九州大学・福岡市, 2018年5月20日, 口頭
13. 桑畑 洋一郎, 「施設内暴力の解消に向けた臨床社会学的研究」, 第134回日本社会分析学会例会, 九州大学・福岡市, 2017年12月16日, 口頭
14. 桑畑 洋一郎, 「施設内暴力のネットワーク分析」, 第44回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・

山口市, 2017年11月18日, 口頭

15. 桑畑 洋一郎, 「病への“対策”はいかに規定されるのか: HTLV-1対策推進協議会議事録への計量テキスト分析より」, 第132回日本社会分析学会例会, 北九州市立大学・北九州市, 2016年12月17日, 口頭
16. 桑畑 洋一郎, 「新任保育士の困難に関する探索的分析」, 第131回日本社会分析学会例会, 九州大学西新プラザ・福岡市, 2016年7月31日, 口頭
17. 桑畑 洋一郎, 「HTLV-1関連疾患当事者団体に見る当事者運動の分析」, 第130回日本社会分析学会例会, 下関市立大学・下関市, 2015年12月13日, 口頭
18. 桑畑 洋一郎, 「病んだ当事者の運動に関する分析: HTLV-1関連疾患当事者団体を事例に」, 第39回山口地域社会学会研究例会, 山口大学・山口市, 2015年11月14日, 口頭
19. 桑畑 洋一郎, 「市民保育者の養成に向けて」, 第54回全国保育士養成協議会研究大会, ロイトン札幌・札幌市, 2015年9月23日, ポスター
20. 桑畑 洋一郎, 「ハンセン病療養所の将来構想の可能性: 菊池恵楓園内保育施設「かえでの森こども園」に関する調査から」, 第73回西日本社会学会大会, 山口県立大学・山口市, 2015年5月16日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 桑畑 洋一郎, HTLV-1関連疾患当事者の当事者運動に関する研究, 17K04184, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 桑畑 洋一郎, 大学院博士課程修了者のキャリア形成に関する調査研究, 19K02873, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
3. 桑畑 洋一郎, HTLV-1関連疾患当事者の当事者運動に関する研究, 17K04184, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
4. 桑畑 洋一郎, HTLV-1関連疾患当事者の当事者運動に関する研究, 17K04184, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
5. 桑畑 洋一郎, HTLV-1感染症当事者の生活に関する研究, 26380731, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
6. 桑畑 洋一郎, HTLV-1感染症当事者の生活に関する研究, 26380731, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## 日本・中国言語文学講座

富平 美波 (とみひら みわ) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 山口大学大学院東アジア研究科編, 馬 彪・阿部 泰記編集責任, 何 曉毅・姚 継中・桂 勝・葉 濤・富平 美波ほか7名, 『東アジア伝統の継承と交流 (山口大学大学院東アジア研究科東アジア研究叢書3)』, 白帝社, 2016年3月, 全308ページ, 翻訳, 林 淑貞 (富平 美波訳), 「伝記的情景の表現: 夏敬観による詩歌の評注と彼の人生の境遇との相互的演繹」, 167-188ページ, および, 分担執筆, 「切字釋疑」に見える音韻観について」, 267-298ページ

## II. 論文

1. 富平 美波, 『續通志』「七音略」の格子門法をめぐって, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 83-107ページ, 査読無し
2. 富平 美波, 『直指玉鑰匙門法』の反切例をめぐって, 『山口大学文学会志』, 69巻, 2019年3月, 37-65ページ, 査読無し
3. 富平 美波, 『續通志』「七音略」の韻図について, 『山口大学文学会志』, 67巻, 2017年3月, 23-47ページ, 査読無し

## III. 研究ノート・書評等

なし

## IV. 講演・口頭発表等

なし

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 富平 美波, 『続通志』「七音略」とその門法の研究, 16K02680, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 富平 美波, 『続通志』「七音略」とその門法の研究, 16K02680, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. 富平 美波, 『続通志』「七音略」とその門法の研究, 16K02680, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
4. 富平 美波, 『続通志』「七音略」とその門法の研究, 16K02680, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
5. 富平 美波, 「切字釈疑」の研究, 25370480, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

根ヶ山 徹 (ねがやま とおる) 博士 (文学)

## I. 書籍等出版物

1. 葉 長海主編, 根ヶ山 徹ほか, 『湯頭祖与臨川四夢』, 上海古籍出版社, 2016年7月, 全671ページ, 分担執筆, 「試論文林閣刻本与朱墨套印本《牡丹亭還魂記》对後続版本的影響」, 120-139ページ
2. 根ヶ山 徹, 『牡丹亭還魂記匯校』, 山東大学出版社, 2015年4月, 全474ページ, 単著

## II. 論文

1. 根ヶ山 徹, 「宮内庁書陵部所蔵徳山毛利家旧蔵漢籍分類目録 (稿)」, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 63-117ページ, 査読無し
2. 根ヶ山 徹, 「半園刪訂『還魂記定本』における『牡丹亭還魂記』の改編」, 『学芸国語国文学』, 50号, 2018年3月, 114-123ページ, 査読無し
3. 根ヶ山 徹, 「《牡丹亭還魂記》版本系統試探」, 『湯頭祖研究』, 26号, 2017年5月, 46-74ページ, 査読有り
4. 根ヶ山 徹, 「試論文林閣刻本与朱墨套印本《牡丹亭還魂記》对後続版本的影響」, 『中華戯曲』, 52巻, 2016年12月, 166-186ページ, 査読有り (I.書籍等出版物1.の転載)

## III. 研究ノート・書評等

なし

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 根ヶ山 徹, 「藩政期徳山藩主毛利元次の文化沙龍: 徳山毛利家」, 山西師範大学外国語学院学術講座, 山西師範大学・臨汾市 (中国), 2017年9月21日, 口頭, 招待有り
2. 根ヶ山 徹, 「日本關於中国戯劇的接受与研究」, 山西師範大学戯劇与影視学院学術講座, 山西師範大学・臨汾市 (中国), 2017年9月20日, 口頭, 招待有り
3. 根ヶ山 徹, 「半園刪訂《還魂記定本》中對於《牡丹亭還魂記》的改編」, 山西師範大学戯劇与影視学院学術報告会, 山西師範大学・臨汾市 (中国), 2017年9月20日, 口頭, 招待有り

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 根ヶ山 徹, 徳山毛利家棲息堂文庫所蔵和刻本漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成, 19K00372, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 根ヶ山 徹, 徳山毛利家棲息堂所蔵漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成, 15K02439, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. 根ヶ山 徹, 徳山毛利家棲息堂所蔵漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成, 15K02439, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
4. 根ヶ山 徹, 徳山毛利家棲息堂所蔵漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成, 15K02439, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
5. 根ヶ山 徹, 徳山毛利家棲息堂所蔵漢籍の書誌学的研究と分類目録の作成, 15K02439, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

#### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

和田 学 (わだ まなぶ) 修士 (文学)

#### I. 書籍等出版物

なし

#### II. 論文

1. 和田 学, 「雨に降られる」は間接受動文か?, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 71-81ページ, 査読無し
2. 和田 学, 「日本語と韓国語の複合移動動詞」, 『九州大学言語学論集』, 35巻, 2015年3月, 267-286ページ, 査読無し

#### III. 研究ノート・書評等

なし

#### IV. 講演・口頭発表等

なし

#### V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 和田 学, 日本語と韓国語の複雑述語とモジュール形態論, 25370433, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

**森野 正弘 (もりの まさひろ) 博士 (文学)**

### I. 書籍等出版物

1. 山口大学時間学研究所編, 青山 拓央・山口 尚・平井 靖史・高橋 大助・森野 正弘ほか4名, 『時間学の構築Ⅱ 物語と時間』, 恒星社厚生閣, 2017年6月, 全231ページ, 分担執筆, 第4章「オルタナティブな時間と物語を拓く夢: 小野小町、道綱母、明石の入道の夢解釈」, 93-117ページ
2. 山口大学大学院東アジア研究科編, 馬 彪・阿部 泰記編集責任, 何 曉毅・姚 継中・桂 勝・葉 濤・森野 正弘ほか7名, 『東アジア伝統の継承と交流』(山口大学大学院東アジア研究科東アジア研究叢書3), 白帝社, 2016年3月, 全308ページ, 分担執筆, 第9章「物語の冒頭表現が拓く異郷の時間: 小さ子譚としての『竹取物語』」, 149-166ページ

### II. 論文

1. 森野 正弘, 「『源氏物語』の内大臣家における音楽の相承: トーテム化する和琴」, 『山口大学文学会志』, 70巻, 2020年3月, 43-61ページ, 査読無し
2. 森野 正弘, 「「レーダーホーゼン」の物語構造: 母の物語/娘の語り」, 『山口国文』, 43号, 2020年3月, 101-115ページ, 査読無し
3. 森野 正弘, 「『伊勢物語』惟喬親王章段における時間の構造」, 『日本文学』, 65巻4号, 2016年4月, 68-78ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

1. 森野 正弘, (紹介), 「上原作和・正道寺康子企画・編集『DVD 古韻琴声 余明 王昭君を奏でる』」, 『文学研究』, 31号, 2020年3月, 57-65ページ, 査読無し
2. 森野 正弘, (書評), 「上原作和・正道寺康子著『日本琴學史』」, 『北陸古典研究』, 31号, 2016年11月, 32-37ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. 森野 正弘, 「入れ子構造化する〈教養/専門〉: 文学教育における時間的射程」, 第67回: 中国・四国地区大学教育研究会, 山口大学・山口市, 2019年6月9日, シンポジウム (要旨: 森野正弘, 「入れ子構造化する〈教養/専門〉: 文学教育における時間的射程」, 『第67回: 中国・四国地区大学教育研究会・プログラム』, 山口大学・山口市, 令和元年6月8日~9日, 4-5ページ)
2. 森野 正弘, 「物語における絃楽器の相承: 『源氏物語』の和琴と人物の関係」, 第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会, 京都リサーチパーク東地区1号館・京都市, 2018年10月27日, シンポジウム (要旨: 正道寺康子, 「東アジア文化圏としての日本古代音楽と文学」, 『第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会・資料集』, 国際日本文化研究センター/京都リサーチパーク東地区1号館・京都市, 2018年10月26日~28日, 56ページ)
3. 森野 正弘, 「ほととぎす(郭公/時鳥)の初音に投影される宮廷女性の時間意識」, 時間学国際シンポジウム2018中世日本の時間意識, 山口大学・山口市, 2018年8月1日, 口頭 (要旨: 森野正弘, 「ほととぎす(郭公/時鳥)の初音に投影される宮廷女性の時間意識」, 『時間学国際シンポジウム2018・中世日本の時間意識・プログラム予稿集』, 山口大学・山口市, 2018年8月1日~3日, 17ページ)

4. 森野 正弘, 「平安文学が描く夢の位相と諸相」 / 「文学研究とは何か: 言語が拓く異空間としての文学」, 第1回常熟理工学院中日日本語・日本文学国際シンポジウム: 異空間を繋ぐ言語学と文学, 常熟理工学院・常熟市 (中国), 2017年9月16日, 口頭/講演, 招待有り
5. 森野 正弘, 「平安文学における夢告と遊離魂」, 時間学国際セミナー「眠りの時間学」, 山口大学吉田キャンパス総合研究棟3Fフォーラムスペース・山口市, 2015年12月18日, 口頭 (要旨: 森野正弘, 「平安文学における夢告と遊離魂」, 『時間学国際シンポジウム2015・時間学国際セミナー・講演予稿集』, 山口大学・山口市, 2015年12月18日~19日, 15-16ページ)
6. 森野 正弘, 「物語の描く異郷の時間: 過去表現としての「昔」」, “中日語言・民俗・文化”国際研討会, 貴州大学・貴陽市 (中国), 2015年10月16日, 口頭 (要旨: 森野正弘, 「物語の描く異郷の時間: 過去表現としての「昔」」, 『“中日語言・民俗・文化”国際研討会・資料集』, 貴州大学・貴陽市 (中国), 2015年10月16日~17日, 35ページ)
7. 森野 正弘, 「平安期の物語における歴史的時間の相対化」, 第7回日本時間学会大会, 山口大学・山口市, 2015年6月6日, 口頭 (要旨: 森野正弘, 「平安期の物語における歴史的時間の相対化」, 『時間学公開学術シンポジウム2015・日本時間学会一般演題・講演予稿集』, 山口大学・山口市, 2015年6月6日~7日, 17ページ)
8. 森野 正弘, 「『伊勢物語』惟喬親王章段における時間の構造」, 第40回山口大学人文学部国語国文学会研究発表大会, 山口大学・山口市, 2015年5月10日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 森野 正弘, 楽書『教訓抄』全注釈のための基盤形成, 18K00157, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
2. 森野 正弘, 楽書『教訓抄』全注釈のための基盤形成, 18K00157, 基盤研究(C), 分担者, 2018年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

**野坂 昭雄** (のさか あきお) 博士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 呉 京煥・劉 建輝編, 野坂 昭雄・鈴木 貞美・竹内 清己・奥山 文幸・山崎 義光ほか4名, 『日本浪漫派とアジア: 保田與重郎を中心に』, 晃洋書房, 2019年2月, 全184ページ, 共著, 第3章「初期保田與重郎における市民社会・芸術・イロニー」, 34-49ページ (初出: 野坂昭雄「初期保田與重郎における市民社会・イロニー・転向: 小説「蝸牛の角」を軸に」, 『文芸研究』, 184号, 2017年9月, 1-15ページ)
2. 和田 博文監修, 野坂 昭雄編, 『コレクション・戦後詩誌11シベリアからの帰還者』, ゆまに書房, 2018年7月, 全1033ページ, 編者, 「エッセイ・解題・関連年表・人名別作品一覧・主要参考文献」, 925-1033ページ
3. 川口 隆行編, 野坂 昭雄・齋藤 一・中野 和典・楠田 剛士・柳瀬 善治ほか24名, 『〈原爆〉を読む文化事典』, 青弓社, 2017年9月, 全388ページ, 分担執筆, 「『死の灰詩集』論争」 / 「核SFと核批評」 / 「核・原爆を撮る」 / 「性愛」 / 「核廃棄物処理場」, 35-39 / 203-207 / 234-238 / 291-295 / 370-374ページ
4. 奥山 文幸編, 野坂 昭雄・五味潤 典嗣・浦田 義和・中野 貴文・五島 慶一ほか5名, 『蓮田善明論』, 翰林書房, 2017年9月, 全177ページ, 共著, 「蓮田善明における詩と小説」, 48-76ページ
5. 西日本女性文学研究会編, 野坂 昭雄・跡上 史郎・池田 静香・和泉 僚子・稲田 大貴ほか38名, 『西日本女性文学案内』, 花書院, 2016年2月, 全175ページ, 分担執筆, 「江口章子」 / 「田吹繁子」 / 「司凍季」 / 「野上弥生子」 / 「野溝七生子」, 30-31 / 96 / 97-98 / 120-121 / 123ページ

## II. 論文

1. 野坂 昭雄, 「夏目漱石「草枕」における戦争:「趣味の遺伝」との対比から」, 『山口国文』, 43号, 2020年3月, 35-47ページ, 査読無し
2. 野坂 昭雄, 「原爆と〈ひと〉 ①ジョルジュ・ムスタキ」, 『原爆文学研究』, 17号, 2018年12月, 151-155ページ, 査読無し
3. 野坂 昭雄, 「原爆と〈ひと〉 ②濱本武一」, 『原爆文学研究』, 17号, 2018年12月, 156-162ページ, 査読無し
4. 野坂 昭雄, 「夏樹静子作品事典 死の谷から来た女／雲から贈る死／そして誰かいなくなった」, 『文学批評 絃説』, III-15号, 2018年10月, 69-71ページ, 査読無し, 招待有り
5. 野坂 昭雄, 「初期保田與重郎における市民社会・イロニー・転向:小説「蝸牛の角」を軸に」, 『文芸研究』, 184号, 2017年9月, 1-15ページ, 査読有り
6. 野坂 昭雄, 「伊東静雄とワーズワース:「ある少年」受容の可能性をめぐって」, 『山口国文』, 40号, 2017年3月, 13-28ページ, 査読無し
7. 野坂 昭雄, 「原爆写真というメディアと〈詩〉」, 『原爆文学研究』, 15号, 2016年8月, 86-100ページ, 査読無し
8. 野坂 昭雄, 「映画『二十四時間の情事』における表象の方法」, 『原爆文学研究』, 14号, 2015年12月, 15-26ページ, 査読無し
9. 野坂 昭雄, 「カタストロフィ後に〈詩〉を書くということ」, 『原爆文学研究』, 14号, 2015年12月, 74-82ページ, 査読無し

## III. 研究ノート・書評等

1. 野坂 昭雄, (書評), 「坂元昌樹『〈文学史〉の哲学』」, 『図書新聞』, 3406号, 2019年7月, 3ページ, 査読無し, 招待有り
2. 野坂 昭雄, (書評), 「高橋啓太著『「文学」の倫理と背理:戦後文学再検討の視座』」, 『日本近代文学』, 98号, 2018年5月, 303-306ページ, 査読無し, 招待有り

## IV. 講演・口頭発表等

1. 野坂 昭雄, 「夏目漱石「草枕」における戦争のイメージ」, 第44回山口大学人文学部国語国文学会, 山口大学・山口市, 2019年5月12日, 口頭
2. 野坂 昭雄, 「戦後広島詩壇における濱本武一と政田岑生」, 広島近代文学研究会2018年秋季例会, 広島大学・東広島市, 2018年10月7日, 口頭
3. 野坂 昭雄, 「伝承と文学の往還:ハイネ、ハーン、柳田を軸として」, 日本比較文学会第79回全国大会, 山形大学・山形市, 2017年6月17日, シンポジウム
4. 野坂 昭雄, 「原爆文学「古典」再読4:峠三吉『原爆詩集』」, 第51回原爆文学研究会, 神戸センタープラザ・神戸市, 2016年12月24日, 口頭
5. 野坂 昭雄, 「保田與重郎における「市民社会」」, 日本文芸研究会平成28年度第1回研究発表会, 東北大学・仙台市, 2016年9月3日, 口頭
6. 野坂 昭雄, 「伊東静雄とワーズワース」, 第41回山口大学人文学部国語国文学会研究発表会, 山口大学・山口市, 2016年5月8日, 口頭
7. 野坂 昭雄, 「原爆写真というメディアと〈詩〉」, 第49回原爆文学研究会「国際会議:核・原爆と表象/文学:原爆文学の彼方へ」, 九州大学西新プラザ・福岡市, 2015年12月13日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 野坂 昭雄, 旧日本映画社撮影長崎原爆映像の超高度精密化と関連資料等による歴史的記録性の確立, 16K02429, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
2. 野坂 昭雄, 旧日本映画社撮影長崎原爆映像の超高度精密化と関連資料等による歴史的記録性の確立



- 立, 16K02429, 基盤研究(C), 分担者, 2018年
3. 野坂 昭雄, 旧日本映画社撮影長崎原爆映像の超高度精密化と関連資料等による歴史的記録性の確立, 16K02429, 基盤研究(C), 分担者, 2017年
  4. 野坂 昭雄, 核・原爆と表象／文学に関する総合的研究, 26284038, 基盤研究(B), 分担者, 2016年
  5. 野坂 昭雄, 旧日本映画社撮影長崎原爆映像の超高度精密化と関連資料等による歴史的記録性の確立, 16K02429, 基盤研究(C), 分担者, 2016年
  6. 野坂 昭雄, 核・原爆と表象／文学に関する総合的研究, 26284038, 基盤研究(B), 分担者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

尾崎 千佳 (おざき ちか) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 大内氏歴史文化研究会編, 伊藤 幸司・真木 隆行・荏開津 通彦・尾崎 千佳・川岡 勉ほか14名, 『大内氏の世界をさぐる: 室町戦国日本の覇者』, 勉誠出版, 2019年7月, 全404ページ, 分担執筆, 「大内氏の文芸」, 313-354ページ
2. 尾形 侑・島津 忠夫・石川 真弘・牛見 正和・尾崎 千佳ほか6名, 『西山宗因全集 第6巻 解題・索引篇』, 八木書店, 2017年4月, 全502ページ, 共編, 口絵・補訂・資料解題・初句索引, 1-234ページ, 1-268ページ (初句索引)
3. 廣木 一人 (研究代表)・玉城 司・深沢 眞二・堀川 貴司・尾崎 千佳ほか1名, 『榊原家の文芸: 忠次・政房・政邦』 (平成25年度～平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書「近世大名榊原家の文芸の総合的研究: 研究成果中間報告書」), 2017年3月, 全748ページ, 単著, 「歳旦書付から歳旦帖へ」 (論考編第6節), 46-60ページ, および, 共著, 「浄晃院様御詠草」 / 「一掬集」 / 「政房公御詠草」 / 「千流一滴集」, 79-342 / 381-742ページ
4. 篠原 進・中嶋 隆編, 塩崎 俊彦・早川 由美・尾崎 千佳・森田 雅也・深沢 眞二ほか7名, 『ことばの魔術師西鶴: 矢数俳諧再考』, ひつじ書房, 2016年11月, 全413ページ, 分担執筆, 「西山宗因の俳業」, 69-98ページ
5. 廣木 一人・玉城 司・深沢 眞二・堀川 貴司・尾崎 千佳ほか1名, 『榊原三代私家集』, 平成25年度～平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果中間報告書, 2016年3月, 全220ページ, 共著, 「榊葉和歌集」, 127-168ページ

### II. 論文

1. 尾崎 千佳, 「宗因と伊勢 統貂」, 『ビブリア』, 152号, 2019年10月, 1-31ページ, 査読無し, 招待有り
2. 尾崎 千佳, 「宗因における出家とその意味」, 『近世文藝』, 108号, 2018年7月, 17-36ページ, 査読有り
3. 尾崎 千佳, 「新出 宗因資料二点」, 『ビブリア』, 143号, 2015年5月, 54-64ページ, 査読無し, 招待有り

### III. 研究ノート・書評等

1. 尾崎 千佳, (書評), 「稲葉有祐『宝井其角と都会派俳諧』」, 『国文学研究』, 190号, 2020年3月, 119-123ページ, 査読無し, 招待有り

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 尾崎 千佳, 「宗因と伊勢 新考」, 平成30年度芭蕉祭文部科学大臣賞受賞記念講演・歌枕俳枕講座, ハイトピア伊賀・伊賀市, 2018年10月11日, 口頭, 招待有り
2. 尾崎 千佳, 「柿衛賞から『西山宗因全集』への道のり」, 平成30年度柿衛忌講演会, 公益財団法人柿衛文庫・伊丹市, 2018年6月3日, 口頭, 招待有り
3. 尾崎 千佳, 「宗因における出家とその意味」, 平成29年度日本近世文学会秋季大会, 鹿児島大学・鹿児島市, 2017年11月18日, 口頭

#### V. 受賞

1. 西山宗因全集編集委員会, 平成30年度文部科学大臣賞, 公益財団法人芭蕉翁顕彰会, 2018年10月

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 尾崎 千佳, 西山宗因年譜考証, 15K02249, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
2. 尾崎 千佳, 西山宗因年譜考証, 15K02249, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
3. 尾崎 千佳, 西山宗因年譜考証, 15K02249, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
4. 尾崎 千佳, 近世大名榊原家の文芸の総合的研究, 25284050H, 基盤研究(B), 分担者, 2016年
5. 尾崎 千佳, 西山宗因年譜考証, 15K02249, 基盤研究(C), 代表者, 2015年
6. 尾崎 千佳, 近世大名榊原家の文芸の総合的研究, 25284050H, 基盤研究(B), 分担者, 2015年

#### VII. その他(特記すべき作品, 活動等)

1. 尾崎 千佳, 「大内氏と飛鳥井家: 政弘期を中心に」, 平成30年度大内氏歴史文化研究会市民学術講座, 大殿地域交流センター・山口市, 2019年2月2日
2. 尾崎 千佳, 「宗因から芭蕉へ」, 公益のふるさと創り鶴岡アートキャンパス2018特別講演会, 旧風間家住宅丙申堂・鶴岡市, 2018年8月30日
3. 尾崎 千佳, 「義弘・盛見・持世の和歌と連歌」, 平成29年度大内氏歴史文化研究会市民学術講座, 大殿地域交流センター・山口市, 2018年1月29日
4. 尾崎 千佳, 「『大内義隆記』の語りを読む」, 平成28年度大内文化探訪会公開歴史講座, 山口県立図書館レクチャールーム・山口市, 2016年7月9日

更科 慎一(さらしな しんいち) 修士(文学)

#### I. 書籍等出版物

1. 古松 崇志・臼杵 勲・藤原 崇人・武田 和哉編, 高井 康典行・蓑島 栄紀・井黒 忍・吉野 正史・更科 慎一ほか16名, 『金・女真の歴史とユーラシア東方』, 勉誠出版, 2019年4月, 全336ページ, 分担執筆, コラム「女真館訳語」, 186-192ページ
2. 山口大学大学院東アジア研究科編, 馬 彪・阿部 泰記編集責任, 何 曉毅・姚 継中・桂 勝・葉 濤・更科 慎一ほか7名, 『東アジア伝統の継承と交流』(山口大学大学院東アジア研究科東アジア研究叢書3), 白帝社, 2016年3月, 全308ページ, 分担執筆, 「『元朝秘史』の音訳漢字の声調について」, 245-266ページ

#### II. 論文

1. 更科 慎一, 「『華夷訳語』の音訳法の諸問題: 『女真館訳語』を中心に」, 『山口大学文学会志』, 69巻, 2019年3月, 67-94ページ, 査読無し
2. 更科 慎一, 「朝鮮19世紀末漢語会話書的注音特点」, 『言語学論叢』, 第58輯, 2019年2月, 85-111ページ, 査読有り
3. 更科 慎一, 「論四夷館『華夷訳語』音訳漢字漢語音系」, 『南開語言学刊』, 第31期, 2018年9月, 37-45ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 更科 慎一, 「日本における漢字音研究について」 / 「言語研究とは何か」, 第1回常熟理工学院中日日本語・日本文学国際シンポジウム: 異空間を繋ぐ言語学と文学, 常熟理工学院・常熟市 (中国), 2017年9月16日, 口頭 / 講演, 招待有り
2. 更科 慎一, 「論四夷館華夷訳語音訳漢字的漢語音系」, 近代漢語研究の新視野, 南開大学・天津市 (中国), 2017年9月2日, 口頭, 招待有り
3. 更科 慎一, 「日本漢字音研究概観」, 中古近代漢語工作坊, 浙江大学・杭州市 (中国), 2016年12月24日, 口頭, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

なし

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

安本 真弓 (やすもと まゆみ) 博士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 大木 一夫編, 安本 真弓・勝田 耕起・後藤 英次・佐藤 志帆子・マシュー・ジスクほか3名, 『ガイドブック日本語史調査法』, ひつじ書房, 2019年5月, 全328ページ, 分担執筆, 第9章「参考文献を探す」, 185-209ページ

### II. 論文

1. 安本 真弓, 「感情形容詞の意味分類: 『日本古典対照分類語彙表』を基盤として」, 『国語学研究』, 57巻, 2018年3月, 133-147ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 安本 真弓, 「語の意味記述試論: 感情形容詞を例として」, 第40回山口大学人文学部国語国文学会, 山口大学・山口市, 2015年5月10日, 口頭

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 安本 真弓, 日本語形容詞の構文と意味に関する史的研究, 19K13202, 若手研究, 代表者, 2019年
2. 安本 真弓, 古代日本語における形容詞と動詞の文法的性質とその変遷, 25770175, 若手研究(B),

代表者，2016年

3. 安本 真弓，古代日本語における形容詞と動詞の文法的性質とその変遷，25770175，若手研究(B)，代表者，2015年

## VII. その他（特記すべき作品，活動等）

なし

**伊東 達也（いとう たつや）** 博士（教育学）

### I. 書籍等出版物

なし

### II. 論文

1. 伊東 達也，「県立図書館の成立過程における近世と近代の接続について：鍋島家による佐賀図書館の設立をめぐる」、『教育基礎学研究』，17号，2020年3月，1-14ページ，査読有り
2. 伊東 達也，「読書装置としての貸本屋と図書館」、『山口国文』，43号，2020年3月，117-130ページ，査読無し
3. 伊東 達也，「近代日本公共図書館利用史の研究：自立のための勉強空間の成立」，九州大学（博士論文），2016年3月，全144ページ，査読有り
4. 伊東 達也，「明治期の「苦学」の変化の図書館論への影響：雑誌『成功』を中心として」、『図書館文化史研究』，32号，2015年9月，37-61ページ，査読有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 伊東 達也，「県立図書館の成立過程における近世と近代の連続性について：鍋島家による佐賀図書館の設立をめぐる」，日本教育学会第78回大会，学習院大学・豊島区，2019年8月8日，口頭
2. 伊東 達也，「佐賀図書館の図書館史上の意義について」，西日本図書館学会セミナー：西日本の図書館と図書館人「伊東平蔵と佐賀図書館」，徴古館・佐賀市，2019年8月3日，口頭

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 伊東 達也，読書施設における「日本的底流」の存在に着目した近世教育と近代教育の連続性の研究，19K14064，若手研究，代表者，2019年

## VII. その他（特記すべき作品，活動等）

なし

## 欧米言語文学講座

岩部 浩三 (いわべ こうぞう) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

なし

### II. 論文

1. 岩部 浩三, 「総称文の謎を認知能力の複合性から解く」, 『JELS』, 36号, 2019年2月, 24-30ページ, 査読有り
2. 岩部 浩三, 「総称文の多様性と認知能力の複合性: 社会的偏見の克服に向けて」, 『英語と英米文学』, 51巻, 2016年12月, 1-16ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

1. 小田 涼・岩部 浩三・二宮 哲・東郷 雄二, (シンポジウム報告), 「総称文の対照言語学: 英語・スペイン語・フランス語における総称」, 『フランス語学研究』, 52号, 2018年6月, 113-121ページ, 査読無し, 招待有り

### IV. 講演・口頭発表等

1. 岩部 浩三, 「総称文の謎を認知能力の複合性から解く」, 日本英語学会第36回大会, 横浜国立大学・横浜市, 2018年11月24日, 口頭
2. 岩部 浩三, 「総称文の多様性と認知能力の複合性仮説」, 日本フランス語学会2017年度シンポジウム, 東京大学駒場キャンパス・目黒区, 2017年6月3日, シンポジウム

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 岩部 浩三, 人間の認知能力の複合性と総称文の多様性, 16K02771, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
2. 岩部 浩三, 人間の認知能力の複合性と総称文の多様性, 16K02771, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
3. 岩部 浩三, 人間の認知能力の複合性と総称文の多様性, 16K02771, 基盤研究(C), 代表者, 2016年

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

太田 聡 (おおた さとし) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. 西岡 宣明・福田 稔・松瀬 憲司・長谷 信夫・緒方 隆文ほか1名編, 大室 剛志・上田 功・Hiroko Saito・越水 雄二・太田 聡ほか45名, 『ことばを編む』, 開拓社, 2018年2月, 全429ページ, 分担執筆, 「日本語複合名詞のアクセント」, 126-135ページ
2. ティモシー・J・バンス・金子 恵美子・渡邊 靖史編, 鈴木 豊・浅井 淳・太田 聡・玉岡 賀津雄・川原 繁人ほか8名, 『連濁の研究: 国立国語研究所プロジェクト論文選集』, 開拓社,

2017年11月, 全249ページ, 分担執筆, 「連濁とアクセント: 普通名詞と無意味語の場合」, 69-94ページ

3. 田中 真一・ピンテール・ガーボル・小川 晋史・儀利古 幹雄・竹安 大編, Junko Ito・Armin Mester・Timothy J. Vance・Shin-ichi Tanaka・太田 聡ほか24名, 『音韻研究の新展開: 窪菌晴夫教授還暦記念論文集』, 開拓社, 2017年3月, 全364ページ, 分担執筆, 「日本語の名詞形成接尾辞『-さ』と『-み』について」, 84-97ページ
4. 日本音韻学会編, 植田 尚樹・小野 浩司・窪園 晴夫・権 延姝・太田 聡ほか51名, 『現代音韻論の動向: 日本音韻論学会20周年記念論文集』, 開拓社, 2016年9月, 全232ページ, 分担執筆, 「ダジャレ混成について」, 112-113ページ
5. 中野 弘三・服部 義弘・小野 隆啓・西原 哲雄監修, 青井 隼人・岡崎 正男・儀利古 幹雄・杉本 淳子・太田 聡ほか176名, 『最新英語学・言語学用語辞典』, 開拓社, 2015年11月, 全536ページ, 分担執筆, 音韻論分野「A」で始まる用語を担当, 42-45ページ

## II. 論文

1. 太田 聡, 「複合名詞のアクセントとc統御」, 『音韻研究』, 22号, 2019年8月, 67-74ページ, 査読有り
2. 太田 聡, 「英語の大母音推移について」, 『英語と英米文学』, 53号, 2018年12月, 1-13ページ, 査読無し
3. 太田 聡, 「日本語複合名詞の非標準的アクセント型について」, 『音韻研究』, 21号, 2018年3月, 81-88ページ, 査読有り
4. OHTA Satoshi, ‘Memorization or Rule-based Generation? Producing Agentive Nouns and Comparative Adjectives in English’, *Proceedings of PMCK Summer Conference 2017*, 2017年6月, 3-4ページ, 査読無し
5. 太田 聡, 「日本語複合語の不規則なアクセント型について予備的考察」, 『山口大学文学会志』, 66巻, 2016年3月, 89-99ページ, 査読無し
6. 太田 聡・太田 真理, 「連濁の生起率に基づく日本語複合語の分類: 連濁データベースによる研究」, 『国立国語研究所論集』, 10巻, 2016年1月, 179-191ページ, 査読有り

## III. 研究ノート・書評等

1. 太田 聡, (報告), 「手話は言語だ」と改めて認識」, 『異文化研究』, 14巻, 2020年3月, 86-90ページ, 査読無し

## IV. 講演・口頭発表等

1. 太田 聡, 「日英語の複合名詞のアクセントと構成素統御」, 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2018年度研究成果発表会, かんぽの宿 有馬・神戸市, 2019年3月19日, 口頭
2. 太田 聡, 「複合語のアクセントに関するいくつかの問題」, 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究 2017年度研究成果発表会, 山口大学・山口市, 2018年3月27日, 口頭
3. OHTA Satoshi, ‘Memorization or Rule-based Generation? Producing Agentive Nouns and Comparative Adjectives in English’, PMCK Summer Conference 2017, ソウル市立大大学校・ソウル市 (韓国), 2017年6月17日, 講演, 招待有り

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

1. 太田 聡, 日英語対照による周辺の語形成過程の音韻的分析, 19K00663, 基盤研究(C), 代表者, 2019年

2. 太田 聡, 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究, 16H03427, 基盤研究(B), 分担者, 2019年
3. 太田 聡, 日英語対照による語形成と音韻構造に関する発展的研究, 16K02772, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
4. 太田 聡, 隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究, 16H03427, 基盤研究(B), 分担者, 2018年
5. 太田 聡, 日英語対照による語形成と音韻構造に関する発展的研究, 16K02772, 基盤研究(C), 代表者, 2017年
6. 太田 聡, 日英語対照による語形成と音韻構造に関する発展的研究, 16K02772, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
7. 太田 聡, 日英語対照による語形成のメカニズムと音韻構造に関する研究, 24520545, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## HINTEREDER EMDE, Franz (ひんたーえーだー=えむで ふらんつ) 博士 (哲学)

### I. 書籍等出版物

1. 山口大学時間学研究所編, 青山 拓央・山口 尚・平井 靖史・高橋 大助・ヒンターエーダー=エムデ・フランツほか4名, 『時間学の構築Ⅱ 物語と時間』, 恒星社厚生閣, 2017年6月, 全231ページ, 分担執筆, 第6章「物語の時制の考察 夏目漱石の作品を中心に: 時間におけるフィクションの次元」, 143-169ページ
2. Bernard DIETERLE & Manfred ENGEL (ed.), Ritchie ROBERTSON, Jörg LANCKAU, Gerhard LANGER, Angelika BRODERSEN, Franz HINTEREDER-EMDEほか10名, *Writing the Dream. / Écrire le rêve. Cultural Dream Studies 1*, Koenigshausen & Neumann, 2017年, 全358ページ, 分担執筆, 'Literary Dreams in the Works of Natsume Soseki at the Threshold of Japanese Modernity', 239-258ページ
3. NATSUME Soseki, Franz HINTEREDER-EMDE, Der Bergmann, be.bra-Verlag, 2016年9月, 全239ページ, 単訳, 後書き「Nachwort」 / 用語解説「Glossar」, 216-232 / 233-238ページ
4. TANIKAWA Shuntaro & Juerg HALTER, KAKINUMA Marie & Susanne SCHENZLE (ed.), NIIMOTO Fuminari & Franz HINTEREDER-EMDE (trans.), *Das 48-Stunden-Gedicht: Ein Kettengedicht. Uebersetzungen vom Japanischen ins Deutsche*, Wallstein Verlag GmbH, 2016年8月, 全48ページ, 共訳, 5-38ページ
5. Annie BOURGUIGNON, Konrad HARRER & Franz HINTEREDER-EMDE (Hg. / eds.), Monika SCHMITZ-EMANS, Felix MÜLLER, Stefan BUCHENBERGER, Timon JAKLI, WAKABAYASHI Megumiほか23名, *Zwischen Kanon und Unterhaltung: Interkulturelle und intermediale Aspekte von hoher und niederer Literatur / Between Canon and Entertainment: Intercultural and Intermedial Aspects of Highbrow and Lowbrow Literature*, Frank & Timme, 2016年3月, 全462ページ, 共編著, 前書き「Vorwort」, 9-22ページ
6. 新本 史斉, 若林 恵, ヒンターエーダー=エムデ・フランツ, 『ローベルト・ヴァルザー作品集5 盗賊／散文小品集Ⅱ』, 鳥影社, 2015年10月, 全380ページ, 共訳, 7-217 / 277-358ページ

### II. 論文

1. ヒンターエーダー=エムデ・フランツ, 「20世紀をさまよう白雪姫: ジェンダー意識に目覚める姫」, 『異文化研究』, 14巻, 2020年3月, 24-35ページ, 査読無し
2. HINTEREDER-EMDE, Franz, 'Antagonistische Dynamik der Identitätsproblematik in Natsume Sosekis *Der Bergmann*: Individuum, Wahrnehmung und Poetik', 『独仏文学』, 41巻, 2019年12月, 29-41ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

1. ヒンターエーダー=エムデ・フランツ, (報告), 「2019年、夏期海外研修の報告:マカオ、ベルリン、ローレンでの研究活動を終えて」, 『異文化研究』, 14号, 2020年3月, 83-85ページ, 査読無し

### IV. 講演・口頭発表等

1. HINTEREDER-EMDE, Franz, 'Synaesthetic narration. Robert Walser's Experiments with Language', 国際比較大会マカオ, マカオ大学・マカオ特別行政区 (中国), 2019年7月31日, 口頭
2. HINTEREDER-EMDE, Franz, 'Ghost Dreams: *Tales of Moonlight and Rain (Ugetsu Monogatari)* by Ueda Akinari (1776) and Kenji Mizoguchi (1953)', 国際比較大会マカオ, マカオ大学・マカオ特別行政区 (中国), 2019年7月30日, 口頭
3. HINTEREDER-EMDE, Franz, 'Dream in Japanese Mugen Noh Dramas', ILCA Research Committee *Dream Cultures: Mediating the Dream*, ザールラント大学・ザールブリュッケン (ドイツ), 2018年8月31日, 口頭, 招待有り
4. ヒンターエーダーエムデ・フランツ, 20世紀をさまよう白雪姫: ジェンダー意識に覚める姫, 日本比較文学会秋季九州大会, 福岡大学西新プラザ・福岡市, 2017年12月2日, 口頭
5. HINTEREDER-EMDE, Franz, 'Das Innovative hybrider Literatur am Beispiel Robert Walser', 21. World Congress of the International Comparative Literature Association (ICLA) Session 17252, ウィーン大学・ウィーン (オーストリア), 2016年7月21日, 口頭
6. HINTEREDER-EMDE, Franz, 「夏目漱石文学における眠り～夢・感覚・無意識, 眠りの時間学」, 時間学研究所ワークショップ「眠りの時間学」, 山口大学時間学研究所・山口市, 2015年12月18日, 口頭
7. HINTEREDER-EMDE, Franz, '*He and I were the same person: Struggle for Identity in Natsume Soseki's The Miner*', 第5回「比較文化」国際シンポジウム Know Thine Enemy, 神奈川大学横浜キャンパス・横浜市, 2015年5月13日, 口頭, 招待有り

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. エムデ・フランツ, ジャンルの混交と共感覚: 20世紀モデルネの文学・絵画の新たな受容, 18K00479, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. エムデ・フランツ, ジャンルの混交と共感覚: 20世紀モデルネの文学・絵画の新たな受容, 18K00479, 基盤研究(C), 代表者, 2018年
3. エムデ・フランツ, 高尚/通俗文学の境界を侵犯する: ヴァルザーやグラウザー戦略のアクチュアリティー, 26370389, 基盤研究(C), 代表者, 2016年
4. エムデ・フランツ, 高尚/通俗文学の境界を侵犯する: ヴァルザーやグラウザー戦略のアクチュアリティー, 26370389, 基盤研究(C), 代表者, 2015年

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

池園 宏 (いけその ひろし) 修士 (文学)

#### I. 書籍等出版物

1. イギリス小説読書研究会編, 金子 幸男・池田 祐子・鶴飼 信光・岩下 いずみ・池園 宏ほか4名, 『英語圏小説と老い』, 開文社出版, 2020年3月, 全330ページ, 分担執筆, 「カズオ・イシグロ文学における老いの表象: 近年の長編小説を中心に」, 225-264ページ



2. 荘中 孝之・三村 尚央・森川 慎也編, 池園 宏・斎藤 兆史・菅野 素子・長柄 裕美・中嶋 彩佳ほか3名, 『カズオ・イシグロの視線: 記憶・想像・郷愁』, 作品社, 2018年7月, 全340ページ, 分担執筆, 「芸術と家族を巡る葛藤: 『浮世の画家』における主従関係」, 35-66ページ
3. 内田能嗣教授傘寿記念論文集刊行委員会編, 塩谷 清人・坂本 武・森松 健介・佐藤 郁子・池園 宏ほか77名, 『文藝禮讃: アイデアとロゴス』, 大阪教育図書, 2016年3月, 全942ページ, 分担執筆, 「孤児の物語として読む『ダニエル・デロンダ』」, 587-596ページ

## II. 論文

1. 池園 宏, 「*The Buried Giant*におけるイシグロ文学の継承と発展」, 『英語英文学研究』, 62巻, 2018年3月, 45-58ページ, 査読有り
2. 池園 宏, 「喪失の諸変奏: *A Pale View of Hills*」, 『英語と英米文学』, 51号, 2016年12月, 39-56ページ, 査読無し

## III. 研究ノート・書評等

なし

## IV. 講演・口頭発表等

1. 池園 宏, 「パラダイムシフト前夜の記憶: *The Buried Giant*における伝説、民族、歴史 (Kazuo Ishiguro, *The Buried Giant*と中世ブリテンの記憶を語る: 中世英文学の系譜を21世紀に「受容する」とはどのようなことか?)」, 日本英文学会第91回大会, 安田女子大学・広島市, 2019年5月25日, シンポジウム, 招待有り
2. 池園 宏, 「『サイラス・マーナー』の英語教科書作成とその後 (『サイラス・マーナー』の授業研究)」, 日本ジョージ・エリオット協会第22回全国大会, 大谷大学・京都市, 2018年12月8日, シンポジウム, 招待有り
3. 池園 宏, 「Ishiguro文学における老いの表象: 近年の作品を中心に」, 日本英文学会九州支部第71回大会, 九州女子大学・北九州市, 2018年10月20日, 口頭, 招待有り
4. 池園 宏, 「*The Buried Giant*におけるIshiguro文学の継承と発展 (Kazuo Ishiguro再考: さらなる解釈の可能性を求めて)」, 日本英文学会中国四国支部第69回大会, 愛媛大学・松山市, 2016年10月30日, シンポジウム

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

なし

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 平井 杏子・池園 宏, 「Kazuo Ishiguro's Memories of Nagasaki」, *NHK WORLD-JAPAN* (ラジオ・インターネット配信), 2018年4月25日~5月2日, 招待有り
2. 池園 宏, 「近年のイシグロ文学: ノーベル賞受賞セレモニーを振り返って」, 『西日本新聞』, 2017年12月21日, 招待有り

武本 雅嗣 (たけもと まさし) 修士 (文学)

## I. 書籍等出版物

なし

## II. 論文

1. 武本 雅嗣, 「所要時間を表示する前置詞の共通点と相違点」, 『山口大学独仏文学』, 41号, 2019年12月, 43-57ページ, 査読有り
2. 武本 雅嗣, 「二次叙述を構成する en N および en Adj.」, 『山口大学独仏文学』, 39号, 2018年3月, 61-75ページ, 査読無し
3. 武本 雅嗣, 「Faux amis をめぐって」, 『フランス語学研究』, 51号, 2017年6月, 102-106ページ, 査読有り, 招待有り
4. 武本 雅嗣, 「フランス語の前置詞 en の周近的用法について」, 『異文化研究』, 10号, 2016年3月, 58-68ページ, 査読無し

## III. 研究ノート・書評等

1. 武本 雅嗣, (新刊紹介), 「渡邊淳也 (2017) 『ジェロンディフと現在分詞の意味論・語用論』」, 『フランス語学研究』, 52号, 2018年6月, 90-92ページ, 査読有り, 招待有り
2. 武本 雅嗣, (新刊紹介), 「川口順二 (編) (2015) 『フランス語学の最前線3【特集】モダリティ』 ひつじ書房」, 『フランス語学研究』, 50号, 2016年6月, 134-136ページ, 査読有り, 招待有り

## IV. 講演・口頭発表等

1. 武本 雅嗣, 「山口大学における共通教育の全学的初修外国語教育の廃止と人文学部の初修外国語教育への取り組み」, 第67回中国・四国地区大学教育研究会, 山口大学・山口市, 2019年6月9日, 口頭, 招待有り
2. 武本 雅嗣, 「二次叙述構造をなす前置詞 en の用法について」, 関西フランス語研究会, 大阪市立大学・大阪市, 2017年4月15日, 口頭

## V. 受賞

なし

## VI. 競争的資金等の研究課題

なし

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

上田 由紀子 (うえだ ゆきこ) 博士 (言語学)

## I. 書籍等出版物

1. 片岡 喜代子・加藤 宏紀編, 辻子 美保子・佐藤 裕美・相原 昌彦・上田 由紀子・武内 道子, 『言語の意味論的二元性と統辞論』, ひつじ書房, 2016年3月, 全228ページ, 分担執筆, 「命令文からみたCP領域の統語構造」, 169-196ページ
2. 長谷川 信子編, 栗原 和生・梅原 太輔・田川 憲二郎・上田 由紀子・濱田 陽ほか15名, 『日本の英語教育の今、そして、これから』, 開拓社, 2015年3月, 全391ページ, 分担執筆 (濱田 陽と共著), 「英語教育におけるシャドーイングの有用性と可能性」, 180-195ページ

## II. 論文

1. MAKI Hideki, WU Wen-Liang, JIN Xiao-Yu, LI Xiang-Lin, UEDA Yukikoほか6名, ‘The Minimal English Test: Its Correlation with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2018’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 44巻, 2019年2月, 41-47ページ, 査読無し

2. MAKI Hideki, MA Wen, LUI Yi, HASEBE Megumi, UEDA Yukikoほか5名, ‘The METs 4E3, 4E4, 4E5, and 6: Their Correlations with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2017’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 43巻, 2018年9月, 1-12ページ, 査読無し
3. MAKI, Hideki, MA Wen, LIU Yi, HASEBE Megumi, UEDA Yukikoほか6名, ‘The Minimal English Test: Its Correlation with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2017’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 42巻, 2018年2月, 27-34ページ, 査読無し
4. UEDA Yukiko, ‘An FM & LA Approach to Relative Quantifier Scope Calculation’, 『英語と英米文学』, 52巻, 2017年12月, 27-52ページ, 査読無し
5. MAKI Hideki, WU Shu-Jing, XU Zi-Wei, ZHANG Yue-Huan, UEDA Yukikoほか5名, ‘The METs 4E3, 4E4, 4E5, and 6: Their Correlations with the University Entrance Examination (English Part) 2016’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 41巻, 2017年10月, 9-19ページ, 査読無し
6. MAKI Hideki, WU Shu-Jing, XU Zi-Wei, ZHANG Yue-Huan, UEDA Yukikoほか5名, ‘The Minimal English Test: Its Correlation with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2016’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 40巻, 2017年2月, 23-28ページ, 査読無し
7. MAKI Hideki, REN Wen-Qi, WANG Can, HASEBE Megumi, UEDA Yukikoほか5名, ‘The METs 4E3, 4E4, 4E5, and 6: Their Correlations with the University Entrance Examination (English Part) 2015’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 39巻, 2016年10月, 1-10ページ, 査読無し
8. MAKI Hideki, REN Wen-Qi, WANG Can, HASEBE Megumi, UEDA Yukikoほか5名, ‘The Minimal English Test: Its Correlation with the University Entrance Examination (English Part) 2015’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 38巻, 2016年2月, 59-64ページ, 査読無し
9. MAKI Hideki, HASEBE Megumi, GAO Yong-Xin, UMEZAWA Toshiro, UEDA Yukiko, OCHI Masaoほか5名, ‘The METs 4E3, 4E4, and 6: Their Correlations with the University Entrance Examination (English Part) 2014’, 『岐阜大学地域科学部研究報告』, 37巻, 2015年10月, 45-54ページ, 査読無し
10. UEDA Yukiko & FUJIMAKI Kazuma, ‘Quantifiers outside vP-Phases’, *Proceedings of the 17th Seoul International Conference on Generative Grammar: 2015 Case and Agreement in Minimalism*, 2015年8月, 530-546ページ, 査読有り

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. 上田 由紀子・内堀 朝子, 「日本手話における非手指副詞, 動詞, 目的語の語順について」, 日本言語学会第158回大会, 一橋大学・国立市, 2019年6月22日, 口頭 (「(大会資料) 日本手話における非手指副詞, 動詞, 目的語の語順について」, 『日本言語学会第158回大会予稿集』, 一橋大学・国立市, 2019年6月22日, 査読有り, 342-348ページ)
2. UEDA Yukiko & FUJIMAKI Kazuma, ‘Quantifiers outside vP-Phases’, *The 17th Seoul International Conference on Generative Grammar*, Kyong-Hee University・ソウル市 (韓国), 2015年8月15日, 口頭

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 上田 由紀子, 日本手話における空項に関する統語研究, 18K00576, 基盤研究(C), 代表者, 2019年
2. 上田 由紀子, 日本手話における文末指さしの指示対象に関する統語研究, 17K02691, 基盤研究(C), 分担者, 2019年
3. 上田 由紀子, 日本手話における空項に関する統語研究, 18K00576, 基盤研究(C), 代表者, 2018年

4. 上田 由紀子, 日本手話における文末指さしの指示対象に関する統語研究, 17K02691, 基盤研究(C), 分担者, 2018年
5. 上田 由紀子, 日本手話における文末指さしの指示対象に関する統語研究, 17K02691, 基盤研究(C), 分担者, 2017年

## VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

## DE BOISSIEU, Michel (どぼあしゅ みしえる) 修士 (文学)

### I. 書籍等出版物

1. Annie BOURGUIGNON, Konrad HARRER & Franz HINTEREDER-EMDE (Hg. / eds.), Monika SCHMITZ-EMANS, Felix MÜLLER, Stefan BUCHENBERGER, Timon JAKLI, Michel DE BOISSIEUほか23名, *Zwischen Kanon und Unterhaltung: Interkulturelle und intermediale Aspekte von hoher und niederer Literatur / Between Canon and Entertainment: Intercultural and Intermedial Aspects of Highbrow and Lowbrow Literature*, Frank & Timme, 2016年3月, 全462ページ, 分担執筆, ‘Von einer Satire zu einem Melodrama: Helmut Käutners Verfilmung einer Erzählung von Maupassant’, 383-392ページ

### II. 論文

1. DE BOISSIEU, Michel, ‘La musique de Wagner dans Les Deux étendards de Lucien Rebatet : le drame au service de l'ironie’, 『山口大学独仏文学』, 41号, 2019年12月, 59-72ページ, 査読有り
2. DE BOISSIEU, Michel, ‘Casanova et les pays germaniques’, 『山口大学独仏文学』, 40号, 2018年12月, 1-20ページ, 査読無し
3. DE BOISSIEU, Michel, ‘Les Vues sur l'Europe : André Suarès et l'Allemagne’, 『山口大学独仏文学』, 39号, 2017年12月, 37-59ページ, 査読無し
4. DE BOISSIEU, Michel, ‘La Vie de Beethoven (1903) de Romain Rolland’, 『山口大学独仏文学』, 38号, 2016年12月, 53-66ページ, 査読無し
5. DE BOISSIEU, Michel, ‘Siegfried Kracauer et Tartuffe’, 『山口大学独仏文学』, 37号, 2015年12月, 37-46ページ, 査読無し

### III. 研究ノート・書評等

なし

### IV. 講演・口頭発表等

1. DE BOISSIEU, Michel, ‘Faust: Der Tragödie Erster Teil / Studierzimmer’, International Comparative Literature Association, ウィーン大学・ウィーン (オーストリア), 2016年7月25日, ワークショップパネル

### V. 受賞

なし

### VI. 競争的資金等の研究課題

なし

### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

外山 健二 (とやま けんじ) 博士 (文学)

#### I. 書籍等出版物

1. 外山 健二, 『ポール・ボウルズ: 越境する空の下で』, 春風社, 2020年3月, 全424ページ, 単著
2. 大平 章・倉持 三郎・田中 英史・大熊 昭信・外山 健二ほか6名, 『21世紀の英語文学』, 金星堂, 2017年5月, 全272ページ, 分担執筆, 「モハメド・ショークリ『パンのためだけに』を読む: ポール・ボウルズの〈翻訳〉と21世紀英語文学の可能性」, 91-113ページ

#### II. 論文

1. TOYAMA Kenji, 'Reading Poe's "Ligeia": The Orient and "American" American Literature', 『異文化研究』, 13号, 2019年3月, 57-70ページ, 査読無し
2. TOYAMA Kenji, 'Islam in American Literature: First Report', 『異文化研究』, 12号, 2018年3月, 47-59ページ, 査読無し
3. 外山 健二, 「なぜ、スレイドは医者なのか: 『世界の真上で』における〈新しきもの〉」, 『英語と英米文学』, 52号, 2018年3月, 53-65ページ, 査読無し

#### III. 研究ノート・書評等

1. 外山 健二, (書評), 「岩本 巖『現代アメリカ文学講義』」, 『多民族研究』, 第10号, 2017年3月, 73-76ページ, 査読有り
2. 外山 健二, (書評), 「下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星の想像力』」, 『常磐国際紀要』, 第20号, 2016年3月, 303-306ページ, 査読有り

#### IV. 講演・口頭発表等

1. 外山 健二, 「なぜ、アメリカなのか: グレアム・グリーン『おとなしいアメリカ人』を読む」, 20世紀英文学研究会第211回例会, 大妻女子大学・千代田区, 2019年9月14日, 口頭
2. 外山 健二, 「ポール・ボウルズと〈翻訳〉」, 日本比較文学会第80回全国大会, 日本大学・世田谷区, 2018年6月10日, 口頭
3. 外山 健二, 「アメリカ文学のイスラーム: 第二次報告」, 日本アメリカ文学会第56回全国大会, 鹿児島大学・鹿児島市, 2017年10月14日, 口頭
4. 外山 健二, 「アメリカ文学のイスラーム: 第一次報告」, 日本中東学会第33回年次大会, 九州大学・福岡市, 2017年5月14日, 口頭
5. 外山 健二, 「ポール・ボウルズと〈翻訳〉」, 平成28年度中・四国アメリカ文学会冬季大会, 愛媛大学・松山市, 2016年12月3日, 口頭
6. 外山 健二, 「モハメド・ショークリ『ただパンのために』を読む: 〈翻訳文学〉と21世紀英語文学の可能性」, 20世紀英文学研究会第197回例会, 大妻女子大学・千代田区, 2016年10月8日, 口頭
7. 外山 健二, 'Islam in American Literary History: Forth Report', 第13回チュニジア日本文化・科学・技術学術会議, 筑波大学・つくば市, 2016年2月24日, 口頭
8. 外山 健二, 「ポーと〈オリエント〉」, 日本ポー学会第8回年次大会, 成蹊大学・武蔵野市, 2015年9月19日, 口頭
9. 外山 健二, 「アメリカ文学史のイスラーム: 第三次報告」, 日本中東学会第31回年次大会, 同志社大学・京都市, 2015年5月17日, 口頭

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 外山 健二, アメリカ文学のイスラーム, 16K13203, 挑戦的萌芽研究, 代表者, 2018年
2. 外山 健二, アメリカ文学のイスラーム, 16K13203, 挑戦的萌芽研究, 代表者, 2017年

3. 外山 健二, アメリカ文学のイスラーム, 16K13203, 挑戦的萌芽研究, 代表者, 2016年

VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

下嵯 正利 (しもざき まさとし) 修士 (文学)

I. 書籍等出版物

なし

II. 論文

1. 下嵯 正利, 「ゲルマン語強変化動詞第1種の歴史的変遷 (1)」, 『山口大学独仏文学』, 41号, 2019年12月, 1-27ページ, 査読有り
2. 下嵯 正利, 「古フリジア語における語根音節のgerm.a」, 『山口大学独仏文学』, 39号, 2017年12月, 29-36ページ, 査読無し
3. 下嵯 正利, 「ゲルマン語\*būanをめぐる音韻・形態論上の諸問題」, 『山口大学独仏文学』, 37号, 2015年12月, 1-14ページ, 査読無し

III. 研究ノート・書評等

なし

IV. 講演・口頭発表等

なし

V. 受賞

なし

VI. 競争的資金等の研究課題

なし

VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

なし

乾 秀行 (いぬい ひでゆき) 修士 (言語学)

I. 書籍等出版物

なし

II. 論文

1. INUI Hideyuki, 'The tense-aspect system of Basketo', 『一般言語学論叢』, 20号, 2017年12月, 1-35ページ, 査読有り
2. INUI Hideyuki, 'Converbs in Basketo', *Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics Kyoto 2015*, 2017年10月, 181-194ページ, 査読有り

III. 研究ノート・書評等

なし

#### IV. 講演・口頭発表等

1. INUI Hideyuki, 'Spatial Deitic Expressions in Basketo', The 1st International Conference on Omotic Studies, ウォライタ大学・ソッド (エチオピア), 2018年1月26日, 口頭, 招待有り
2. INUI Hideyuki, 'From Information Structure: Topic and Focus in Basketo', The 19th International Conference of Ethiopian Studies, ワルシャワ大学・ワルシャワ (ポーランド), 2015年8月25日, 口頭
3. INUI Hideyuki, 'Converbs in Basketo', The 8th World Congress of African Linguistics, 京都大学・京都市, 2015年8月21日, 口頭

#### V. 受賞

なし

#### VI. 競争的資金等の研究課題

1. 乾 秀行, エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション: ソーシャル・イノベーションにむけて, 18KK0009, 国際共同研究強化(B), 代表者, 2019年
2. 乾 秀行, エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション: ソーシャル・イノベーションにむけて, 18KK0009, 国際共同研究強化(B), 代表者, 2018年
3. 乾 秀行, 少数言語のドキュメンテーションとエチオピア諸言語のダイナミズムに関する調査研究, 26300022J, 基盤研究(B), 代表者, 2017年
4. 乾 秀行, 少数言語のドキュメンテーションとエチオピア諸言語のダイナミズムに関する調査研究, 26300022, 基盤研究(B), 代表者, 2016年
5. 乾 秀行, 基礎的語彙を含む多次元尺度による言語系統分類自動補完のための系統樹生成手法の開発, 15K00477, 基盤研究(C), 分担者, 2016年
6. 乾 秀行, 少数言語のドキュメンテーションとエチオピア諸言語のダイナミズムに関する調査研究, 26300022, 基盤研究(B), 代表者, 2015年
7. 乾 秀行, 基礎的語彙を含む多次元尺度による言語系統分類自動補完のための系統樹生成手法の開発, 15K00477, 基盤研究(C), 分担者, 2015年

#### VII. その他 (特記すべき作品, 活動等)

1. 乾 秀行, Basketo Text, データベース, エチオピア諸語研究会, 2020年3月